

地 域 コ ミ ュ ニ テ ィ 推 進 協 議 会
提 案 事 業 評 価 表 (平 成 2 3 年 度 執 行)

池田市総合政策部地域分権・協働課

地域コミュニティ推進協議会提案事業評価表(平成23年度執行)

池田地域コミュニティ推進協議会(事業提案総額 9,292千円)

事業名	予算額(千円)		決算額(円)		概要	実施前の状況	実施後の状況	事業の効果	今後の課題等	協議会における評価方法	市の総合評価	市担当課の評価	所管課
	説明(千円)		説明(円)										科目(目)
地域コミュニティ推進協議会事務事業	100	交付金 100	100,000	交付金 100,000									地域分権・協働課 地域分権総務費
地域コミュニティ紙等発行事業	310	補助金 310	305,088	補助金 305,088	地域コミュニティ推進協議会の活動内容を広く地域住民にPRするため、地域コミュニティ紙を全戸配布する。	協議会の活動内容や地域の身近なニュースなどを地域住民にPRするため、20年度からコミュニティ紙を年3回全戸配布している。	地域の世帯数増加に対応するため、発行部数を増額して年3回発行し、たより、発行部数を増加増刷し、計3回発行し全戸配布した。	平成23年度の記事掲載については、より市民目線に近づけることを重視し、ニュースソースを集めた。更に目に留まりやすくするため初めてカラー版を導入した。	より多くの方々に関心がもたれるように、ニュースソース並びに紙面の更なる刷新を含めて積極的に取り組んでいきたいと考えている。次年度は、カラー化する計画がある。			小さな絵本館や市内の遺跡についての特集記事を組まれたり、カラー版を発行するなど毎年度工夫されている。今後も紙面づくりの創意工夫に勤めて欲しい。	地域分権・協働課 コミュニティ推進事業費
地域自主防災体制強化事業	542	補助金 542	534,602	補助金 534,602	地域住民の自主防災体制の強化を図るため、合同防災訓練と防災機能充実事業を実施する。	前年度は、1日拘束されると参加しにくいとの意見があり、また前回の参加者は防災会加入者のみであった。また地域の防災資機材も不足していた。	参加者の拡大、年遠増拡大を1つのテーマとして防災訓練を開催した。栄本町地域防災会、及び上1防災会に資機材を整備した。	自主防災組織未結成地域での組織化が加速される傾向が見受けられる。既存の8防災会間及び同じ町内においても交流のなかつた人とのつながりが出来た。	協議会の安心安全のまち部会が、主体的立場で実施してきたが、今後は8防災会(既存)が主体となり、部会は補助的な立場で活動すべく、検討したい。			防災資機材倉庫の整備や池田小学校区の自主防災組織が合同で防災訓練を実施、さらに講演会を実施するなど、地域の防災活動に大きく貢献したことを評価する。方が一災害が発生した時には有効活用できることを期待する。	危機管理課 安全防事業費
地域防犯推進事業	300	補助金 300	299,854	補助金 299,854	地域住民の安全安心な生活を確保するため、専門家による具体的な防犯術の講習会を開催する。	近年、自転車の利用が増え、ヒヤリ・ハットが増加している。児童虐待が新聞紙上をにぎわす状況になってきている。通常の防犯に関する分野以外についての講演会の要望が高い。	自転車の交通ルール、ひたつくりから身を振るについては、悪心が強かった。児童虐待、DVIについては、大変むづかしい問題だが、予備知識となり危機管理に役立つと思われる。	自転車に関しては、被害者になることはもちろん、加害者にもなる特有の危険を理解できた。児童虐待・DVIに関しては専門の窓口から先ず通報することがベストであると学べた。	校区全体での防犯セミナーには、費用対効果から考えても問題がある。今後は各地域ごとの出前講座形式にすべきではないか。			自転車という身近な危険を取り上げた防犯講習会を開催したことにより、地域の防犯活動等の強化に繋がっていると評価する。	危機管理課 安全防事業費
池田地域コミュニティ推進協議会事務所設置事業	1,241	補助金 1,241	1,230,142	補助金 1,230,142	「ちいさな絵本館」2階に、協議会の会員の相互利用と活動事務の負担軽減を図るため備品等を整備する。	協議会の事務処理は役員の一部の方々の宅内にて行われていた。協議会内打合せ会議場の確保に手間を要した。	池田会館を借り受けることが可能となった後、23年8月から設置作業を本格的に行い10月に設備関係をほぼ完結できた。	協議会事務処理が事務所内にて統一でき、事務員採用により事務処理が飛躍的に効率化された。また、協議会の定例会議が事務所で開催され密度の高い会話ができるようになった。	HPを会員各位の意見を吸収しながら、月1回ペースで更新しており、充実したHPに仕上げていきたい。又、会員相互のコミュニケーションの場としてさらに活用していきたい。			拠点事務所を設置したことにより、今後の協議会活動が活発化することを期待する。	地域分権・協働課 コミュニティ推進事業費
「ちいさな絵本館」整備事業	3,152	修繕料 3,152	2,992,500	修繕料 2,992,500	前年度に引き続き1階の未着工外装工事と2階内装の施工を行う。2階内装工事については既存団体(池田地区福祉委員会等)と活用調整して活動環境を整える。	2階が腐屋同然の状況、西面外壁補修塗装未着工及び電話回線未施設であった。	夏休み期間中に改修工事を施行、8月25日に引き渡しをうけ、9月2日から再開した。	電話回線設置も設置し利便性の向上につながった。	西面は人目につかず、防水も問題なし、予算の関係上化粧塗装は見送る。			校区内の自治会会長会議を開催し、定期的な意見交換がされるなど協議会活動の円滑化が進められている。自主防災体制の強化については、自主防災組織未結成地域での立ち上げ組織化が進んでいる。	総務課 コミュニティ推進事業費
「ちいさな絵本館」推進事業	2,060	補助金 2,060	1,887,361	補助金 1,887,361	絵本を通して地域住民の世代間交流の場を積極的に設け、まちのにぎわいを図る。現在の開館日に加えて毎週土曜日(もしくは日曜日)も開館する。また、絵本の貸出し業務を実施する。絵本の魅力を伝えるため各種講演会を開催する。中学校生徒等に「絵本読み聞かせ講習会」を受講してもらい、実務機会を提供する。	22年9月24日に1階のみの使用で開館、以降年度末までに772の来館者を数える。	イベント・新企画を逐次実施した。	絵本の貸出、スタンプラリーへの参加、その他様々なイベントを行うことで、「ちいさな絵本館」の存在を地域の方々に知っていただくことができ、来館者数につながった。(延2941人)また、ボランティアスタッフ、学生さんたちの対応の対応で、開館日の増及び土曜日の終日開館の要望が出るくらい、地域に根付いてきた。	蔵書の充実増冊、世代間交流の実施、園児、小学生の利用増及びボランティアスタッフの増員が今後の課題である。			地域への周知も進み、活動も毎年利用者のニーズに合わせて工夫されている。「ちいさな絵本館」の中は狭いが整理され、癒しの空間となっている。絵本を通していろいろな出会い、ふれあいの場になっている。	子育て支援課 保健福祉事業費
地域掲示板設置事業	879	修繕料 879	630,000	修繕料 630,000	地域内の統一した掲示板に取り替える。情報の伝達とまちの美化につなげる。	20年の事業計画時には、校区内に大小あわせて30箇所を計画し、その後、20年度から22年度の3年間で、20箇所の設置を終え、ほぼ計画通りの進捗状況にある。	23年度は取替え6箇所を計画し、計画通り設置を終えた。	コミュニティ関係掲示板や公共広報掲示板が目目され、効果が評価されるようになった。協議会名が明示されている事も有って、当協議会の事業活動としても評価を受けている。	コミュニティ掲示板が各所に普及したこともあり、地域評価が高まっているが、やや掲示板状況に地域差があるようで、今後は利用率を更に高められる事が求められる。			掲示板を設置することにより地域内の広報活動に大きく寄与することを期待する。	地域分権・協働課 地域活性化事業費
マイタウンプロジェクト(MTP)フェスティバル事業	400	補助金 400	387,977	補助金 387,977	中学校関係者が中心となって進める。地域内住民間の交流行事を支援して、会話が弾む住みよい地域づくりに貢献する。MTPは春と秋の2回、池田校区の幼稚園・小学校にも声掛けし、地域の子どもから大人までが楽しめる催しを開催する。	開催のチラシ等の配布が学校関係しから出来なかつた為、校区全域に行き渡らなかつたので地域の方々の参加が少なかった。	校区全域で開催のチラシ配布が出来、フェスティバルを盛り上げられる様になった。	フェスティバルの知名度が上がり、活動を応援して下さる方が増えた事で、このフェスティバルが地域との繋がりを大事にしている活動である事をアピールできた。	ふれあいの場であったり、卒業生も集まって地域住民との再会を懐かしめるような場になるよう、次世代にもつなげるような土台をしっかりと作らなければいけない。また、地域の音が見え知れなくなり、たくさんの人に地域とつながってもらおうという趣旨がぶれてはいけない。			地域コミュニティの核となるイベントとして、今後更なる交流の場となることに期待する。	観光・ふれあい課 地域活性化事業費
市民レクリエーション大会事業	308	行事報償金 308	308,000	行事報償金 308,000	校区実行委員会が主となり毎年、小学校運動場を会場にコミュニケーションの拡充とスポーツ意識の向上を目指し実施している。協議会は事業の支援をする。	去年は池小グランドであった。耐震工事の為、今年は池中グランドを借りた。去年は協賛金を各町に求めた。	地域コミュニティ推進協議会から、308,000円の行事報償金が付いた。よって各町の負担が軽減でき、参加者意欲も向上した。池小の教師13人、池中の教師5人のご支援を受けた。	参加者は約1200人。多数の子ども達や一般の参加を得て、相互のコミュニケーションがとれた。	25年度は、池小グランドで行い、元に戻ることができる予定。参加者全員が1つのプログラムには出場できるプログラムを作成したい。			多数の地域住民の参加により、住民の健康・体力づくりとコミュニティの醸成が図られた。今後も潤いのある地域づくりを推進するために、地域のニーズにあった大会運営に取り組んでいきたい。	生涯学習推進課 教育事業費
計		9,292		8,675,524									

細河地域コミュニティ推進協議会(事業提案総額 9,179千円)

事業名	予算額(千円)		決算額(円)		概要	実施前の状況	実施後の状況	事業の効果	今後の課題等	協議会における評価方法	市の総合評価	市担当課の評価	所管課
	説明(千円)		説明(円)										科目(目)
地域コミュニティ推進協議会事務事業	100	交付金 100	100,000	交付金 100,000									地域分権・協働課 地域分権総務費
地域コミュニティ紙等発行事業	490	補助金 490	490,000	補助金 490,000	地域コミュニティ推進協議会の活動内容等を広く地域住民にPRするため、地域コミュニティ紙を全戸配布する。	協議会活動の紹介及び地域の神社仏閣の紹介記事を第8号(23年7月1日)に掲載し、2,000戸に配布した。	広報部取材活動で協議会活動の意味及び神社仏閣の神主・住職に正しい歴史背景を取材し地域の読者に広める。	地域分権の認知度を広めた。久安寺敷地の一部にランドゴルフ場を設置・炭焼工房作業場として個人土地を買収される協力者が出てきた。	部会員はほとんど創設当時のメンバーであるため業務にも慣れ業務がスムーズである。ただ内容がマンネリになりがちで新しい魅力ある内容に更新が必要ではない。			コミュニティ紙の発行が、協議会活動の向上に活用していると感じる。今後も地域分権の認知度向上に寄与していただきたい。 コミュニティ推進事業費	
細河ホームページ作成事業	100	補助金 100	100,000	補助金 100,000	地域の観光資源等の最新情報を更新し、ホームページを通して地域の魅力を発信する。	地域の住民だけでなく、市外の住民にイベントの内容を紹介している。	まだまだ浸透していないが、浜松市・狭山市から地域分権の視察・講演依頼があった。	地域分権について問合せや視察見学・講演依頼の申込みがあった。説明に際し、協議会として十分な準備勉強をし、制度を再認識上で効果は大であった。	次世代に継ぐために新しい会員の加入に課題がある。			ホームページを開発したことに伴い、細河地域コミュニティ推進協議会の活動が全国に認知されつつあると感じている。 コミュニティ推進事業費	
細河地域活性化推進事業	2,703	補助金 2,703	2,703,000	補助金 2,703,000	細河の自然環境や地場産業等を活用し、地域の活性化と、コミュニティ意識の高揚を図るため、「みどりの郷」観光案内所の運営及び地域特産品の朝市販売等一連の事業を総合的に行う。	協議会の事業はほとんど中長期計画に行っている。野菜即売会、福祉弁当の配達、定期総会等の会議で事務所の使用回数をフルに使っている。	売上額は減ったが、固定客が増えた。品質を評価してくれる客は毎回訪問してくれる。出荷者が減って品質も包装体前も向上した。テント張りや常設できたので雨天も心配せずに販売できた。	事務所設置のお陰で協議会以外の方でも気軽に訪問される方が多くあり地域コミュニティには十分役立っている。	常設事務所を設置した協議会には家賃・光熱費等別途に予算を追加協議会本来の目的である地域コミュニティを促進しなければならない。			常設の観光案内所を設置し、細河地域の窓口として定着してきている。また、補木見本園の改修及び、定期的な朝市の実施等を通じて地場産業の活性化に寄与している。 地域活性化課 地域活性化事業費	
細河ふれあい観光推進事業	1,480	補助金 980 補助金 500	1,480,000	補助金 980,000 補助金 500,000	細河の自然環境や地場産業等を活用し、地域の活性化と、コミュニティ意識の高揚を図るため、スタンプラリーイベント、ふれあい動物園、四季写真コンテストとNPO化の立ち上げ準備作業等一連の事業を行う。	細河の活性化と「都会に近い豊かな自然」を見守ることを主眼として細河をPRするように計画していた。また、五月山散策道の整備(中川原から日の丸展望台)裏五月山コース道路標識と案内図は設置し、細河フェアで各自散策に出るとメイン会場である細河小学校校庭がさみしくなり帰宅する客が多い。	年間を通じて来訪者が増え、自然の魅力を撮影した作品36点応募あった。	今年も関大生と協働企画でウォークラリー・細小金管クラブ演奏・地元和太鼓演奏・久安寺見学ツアー等バラエティに富んだイベントを計画。ふれあい動物園は小さいお子さんには大好評で客数も400名を超えた。また、久安寺見学ツアーは久安寺の協力で拝観料を無料にしてお客さんの満足を得られた。グランドゴルフコート・炭焼工房土地の住民から使用依頼は、協議会委員の日頃の活動が地域全体の意識を高めている。	会場が全て野外であるので、全てを晴天を期待して計画しており、万一雨天の場合は計画が全て中止になるので大きな会場が必要である。将来的には観光バス10台・普通車100台位で駐車場と野外ステージ的な会場を作りたい。狭い田舎では細河しかないと思われる。また、次の世代に引き継ぐとしても候補者が見つかりにくい。後継者が手当てできないの退会するような無責任なことは出来ない。			盛り沢山のイベント内容で、地域の結束だけでなく、広く細河を知ってもらえる機会が設けられた。今後も細河地域の活性化に期待する。 観光・ふれあい課 地域活性化事業費	
コミュニティ道路整備事業	500	補助金 500	500,000	補助金 500,000	地域間の交流とコミュニティ意識の高揚を図るため、伏尾台コミュニティ推進協議会と協働で地域間をつなぐコミュニティ道路の整備事業を行う。	伏尾台から久安寺側に行き来するのにバス路線を通ると3、40分かかるので中高生は久安寺側の里道坂道を通行する人が多い。現状では危険なので何とかしたい。	舗装工事以外の道路下整備工事は全て協議会委員で済ませた。工事は次年度も続行する。	初めて二つの協議会協働事業であるので過去に遺産として残るものを作っている。	協議会の温度差をなくすように何回も打ち合わせを持たねばならない。			道路整備により、より安全で安心な道路が確保されたと考える。 伏尾台地区との協働事業として、今後も継続整備されることを期待する。 道路課 土木事業費	
久安寺川堤防八重桜植樹事業	140	補助金 140	140,000	補助金 140,000	国道整備事業と合わせて、久安寺川堤防に八重桜を植樹して散策路の機能を確保する。地域の祈りをつくり行う。	細河は植木産地なれど桜が少なく住民が憩える場所が無い。	国道173号線沿いに八重桜を植樹し、将来的に細河の名所とした。	植樹事業について細河植木塾の方々に東山バス停留見本庭園との調和とおおきな協力を得た。	自然管理としての業務は協議会とNPO法人だけでなく行政との共通の計画を建て取り組まなければならない。	各部会からの報告を受け、役員会でまとめたものを総会で決定する。		細河地域の特性を活かした事業にも取り組まれている。 八重桜の植樹に関しては、今後細河の観光名所となるよう期待している。 関大生との協働企画も今後地域発展のため継続していただきたい。 イベント事業をはじめコミュニティの推進は大変困難な地域である。提案事業も充実しており、福祉、環境、安全・安心など幅広く実施され、コミュニティ紙の発行、ホームページの作成など、周知活動も活発に行っている。 余野川(久安寺川)沿いに八重桜を植栽することで散策路に名所を設けるとともに、地域の憩いの場となっている。植樹についてもコミュニティと細河植木塾が協力することで地域のつながりに貢献している。	
細河祭り運営事業	150	補助金 150	150,000	補助金 150,000	地域の活性化とコミュニティ意識の高揚を図るため、細河祭りの運営事業を総合的に行う。	例年細河祭りを実施している。	校区で盛大に行われ7月30日に盛大に行われ今年も前日の降雨で余野川の水量が増え残念ながら、子ども達の楽しみにしていた「魚つかみ大会」が中止となった。	2ヶ月前から細河まつり実行委員会でも何回も打ち合わせ会がもたれた。小中学生と卒業生が楽しみにしており、模擬店出店の準備等が広がった。	参加者の英語を見て今年もやっつよかったと満足感を得たが、毎年のことだが、野外の模擬店準備には材料の仕込が頭が痛い。			地域の交流に寄与している。今後も、更なるコミュニティの発展に期待する。 観光・ふれあい課 地域活性化事業費	
細河の自然を守る事業	170	補助金 170	170,000	補助金 170,000	ホテルの育成事業の実施と剪定枝リサイクルの調査研究を行う。	ホテル育成は昨年夏のしゅうちゅう豪雨でほとんど流された。室くじ助成金で炭焼釜(250万円)の申請をして昨年度末に認可された。	ホテル養生場所の基作り作業・底地整地を行い、カワニナ(ホテルのえき)を散布した。炭焼釜が寄付され、炭焼材料のため、里山管理で竹藪伐採。炭焼試験的に開始した。	本年5月末からホテルが乱舞している。炭焼釜では予想以上に良質の炭が採れた。今後、炭焼釜の機能確保、焼工房加工品の販売先確保及び里山管理としての伐採業務の人的手配の問題を広めていく。	川沿地所有者の了解あれば八重桜植栽を認めるとのことで炭焼敷地に植栽した。今後、炭焼釜の機能確保、焼工房加工品の販売先確保及び里山管理としての伐採業務の人的手配の問題がある。			ホテルの育成については、継続的に取り組んでおり、効果が表れてきているようである。剪定枝利用など、細河地域の自然を活かした事業に幅広く取り組まれており、今後の展開に期待する。 環境にやさしい課 環境衛生事業費	
細河高齢者等配食サービス事業	1,440	補助金 1,440	1,440,000	補助金 1,440,000	配食の必要とする高齢者等に弁当宅配のサービスを引き続き実施する。同時に、見守り、訪問、声かけを行い、高齢者の社会参加を促す。	現在は週2回(水・金)弁当を配食している。	配食弁当申込者は現在564名になった。季節ごとにより短冊を添えて気持ちよく届けている。配達ごとに声かけを行い、コミュニケーションをとるよう心がけている。	大坂狭山市から地域分権の宅配弁当の依頼がHPを通じてあった。	今年秋頃から人権センターの改修工事に入るため調理室が使用できない。細河幼稚園の現在空き教室を改修して調理室として使用する計画があるが市の公費で改修をお願いしたい。			実対象者75名宅配給食総額4,851食となり、事業として定着してきた。配食のみに止まらず、見守り活動を通じた緊急時の見守り体制の構築が図れた。 高齢介護課 保健福祉事業費	
メタボリックシンドローム予防教室事業	40	補助金 40	40,000	補助金 40,000	前年度の評判につき引き続き実施する。メタボリックシンドローム(内臓肥満症候群)に対する、正しい知識を習得するとともに、細河の自然や地元野菜等を活用した食料で、日常の予防・改善に役立てる。	昨年度は細河コメンで単独で開催した。	今回は細河フェアと同時開催した。	参加者は講師の話を聞き、ためになったとの感想があった。	細河フェアと同時開催は、参加者にとって都合がよいと思ったが、フェアにお客さんを取られた。今回は単独で開催する。			昨年の単独開催から細河フェアと同時開催に変更し、参加者の増員を図られた努力、参加者からの評価についても好評であったため、高く評価する。 健康増進課 保健福祉事業費	
市民レクリエーション大会事業	150	行事報償金 150	150,000	行事報償金 150,000	細河地域の活性化と、コミュニティ意識の高揚を図るため、地域団体が実施する住民運動会の運営事業を支援する。	卒業生や父兄の参加で何となく健康的に行われている。	好天に恵まれ例年通り盛大に行われた。協議会参加者は6名だった。	体育祭は健康的で模擬店もなく整然と行われた。後片付けには運営委員の皆さんがてきぱきと行われた。	児童数の減少でこじんまりしている。			地域の活性化と住民の健康、体力づくりの一環として開催され、地域コミュニティ意識の高揚が図れた。今後も地域に合ったまちづくりの一助としての運動会開催に期待している。 生涯学習推進課 教育事業費	
ブルーライト化事業	1,020	光熱水費 28 請負費 992	840,212	光熱水費 19,112 請負費 821,100	細河地区の防犯灯が設置されていない地域に青色蛍光灯(36w)及び青色LED灯(20w)を設置する。	農作物の育成に被害があるという理由で白色道路灯の設置が農家から拒否されたが、たいふ慣れで増設の要望も増えてきた。	影響の無いブルーライト防犯灯設置を進めてきており、当初は違和感と敬遠されたが、たいふ慣れで増設の要望も増えてきた。	従来のブルーライトが生産中止となり、新型LED防犯灯は価格的に相当高騰した。予算内では設置本数は減ったが新型は違和感が少なく抵抗無く受け入れやすい。	散策道の機能を確保。			街路灯の新設により、地域内の夜間交通の安全確保が図られている。 道路課 土木事業費	
細河小学校芝生管理事業	200	機械器具費 200	200,000	機械器具費 200,000	地域住民、学校関係者と協働で校庭の芝生管理を行い、ふれあいの場を維持するため、芝刈り機を購入する。	初年度に細小校庭芝生化事業を行った。芝生管理で散水業務が大切となり、2、3年目には児童散水整備事業を終えた。	芝生は美しく児童にも好評である。次は芝刈り機が重要となる。	作業はボランティアで行い、設備や道具は機械化しボランティアの方が長続きをし、何時までも美しく維持するようにする。	まちづくりセミナー等で駅前公園を芝生化等を提案されるが、異人はテレビで見るとゴルフ場の美しさに魅せられる。これはグリーンキーパーの管理費を考えると難しいからである。			芝刈り機の購入は地域住民・学校関係のふれあいの場を維持していき、芝生を美しく効率よく維持管理ができていると考える。 管理部総務課 教育事業費	
計		8,683		8,503,212	次年度繰越金額490千円								

秦野地域コミュニティ推進協議会(事業提案総額 9,354千円)

事業名	予算額(千円)		決算額(円)		概要	実施前の状況	実施後の状況	事業の効果	今後の課題等	協議会における評価方法	市の総合評価	市担当課の評価	所管課
	説明(千円)		説明(円)										科目(目)
地域コミュニティ推進協議会事務事業	100	交付金 100	100,000	交付金 100,000									地域分権・協働課
地域コミュニティ紙等発行事業	440	補助金 440	438,994	補助金 438,994	地域コミュニティ推進協議会の活動内容を広く地域住民にPRするため、地域コミュニティ紙を全戸に配布する。	「秦野まちづくりだより」を各戸に配布して、協議会活動のPRに努めた。地域分権をより定着させるために、活動・関心をさらに高める必要があった。	全体的に地域の催しを中心に写真を多く、行事にはより分かりやすく、記事内容を充実させた。	写真、記事などの紹介で、より多くの人々の目を引くようになった。表紙裏面を迫力ある写真を載せ、地域活用し配布されるようになった。	まだまだ活動PRが足りない。地域住民とのコミュニケーションが必要である。協議会の広報活動よりも一層充実させ、活用されるように努めていく。			地域内の行事など地域に根ざした記事を掲載される。写真も多く使用されビジュアル的にも充実している。	地域分権・協働課 コミュニティ推進事業費
共通課題等勉強会開催事業	150	補助金 150	148,877	補助金 148,877	地域内の共通課題の勉強会を開催することにより、実情等情報の共有化を図り課題解決につなげる。	地域安全(防犯・交通など)をもっと意識していただく事がもっと必要である。	池田警察と防犯についての講義。池田警察と交通安全についての講義。内容を秦野地域として考えて、より良い地域として行くことを勉強した。	安全のパンフレットを多く用意して、各地域に配布している。これからも参加者を増やして安全防犯を考えたい。	防犯・交通安全を各地域ごとに考えて、勉強会を開催したいと思います。防犯カメラの意識も考えたい。			今年度は、地域安全をテーマに勉強会を開催されたことで意識の向上につなげて欲しい。	地域分権・協働課 コミュニティ推進事業費
地域ギャラリー維持管理事業	242	電気使用料 11 保険料 1 補助金 230	227,401	電気使用料 0 保険料 0 補助金 227,401	コミュニティ事業の情報発信、地域行事等の広報を行うためギャラリー掲示板を設ける。地域住民の作品を掲載するための維持管理経費を計上する。	地域全体としての共通の作品等の発表や情報の掲示場所が不足していた。	2週間に1回の割合で作品の入れ替えのみ、多くの作品が必要となる。地域の催しも写真等で紹介した。電話の問い合わせも多くなった。	毎年新しい作品も増えている。通行人の方も見て来られる頻度が増えている。	2週間に1回の割合で作品の入れ替えをしているが、作品集めはまだまだ必要。今後も根気よく広報活動を続けていきたい。			作品数も増加しているようで地域になじんできているように感じる。今後も継続していただきたい。	地域分権・協働課 地域活性化事業費
地域活性化推進事業	733	補助金 733	732,421	補助金 732,421	地域の交流と地域活性化を図るためフリーマーケットを開催する。会場設営等の備品等を購入する。	22年度フリーマーケットを開催し、多くの参加を頂いた。備品も購入し、貸し出した。	参加者(個人・団体とも)は、昨年より多くなり渋谷公園の場合は、トイレなどが多く、多くの人が来られた。	申し込み団体・個人とも増えた。非常に好評であった。	PR不足もまだある。備品の貸し出し用に数多く揃える。			地域住民の主体的な活動が活発になれば、地域コミュニティの形成にとって大きな後押しになると思われる。	観光・ふれあい課 地域活性化事業費
地域イベント備品整備事業	878	補助金 878	876,797	補助金 876,797	地域の屋外イベント(自主防災訓練や盆踊り、レクリエーション大会等)の備品貸し出しを行う。行事の目的達成に寄与するため、貸し出し用備品を購入する。	22年度からの備品貸し出しを考え、23年度も引き続き備品を揃えて、地域の行事等に寄与する。	テントの大きさを購入するなど、地域と相談しやすくなった。との意見が多かった。盆踊り、行事に貸し出した。校区盆踊りではテントなど多く貸し出した。	備品の貸し出しが増えた。各団体より活用しやすくなった。との意見が多かった。「まちづくりだより」を見て連絡が多くなった。	地域では行事が多くあり、まだまだ足りない備品もあり、地域と一緒に考えていきたい。分電盤など古い備品も考えたい。			地域のイベントに寄与しており、更なる活用を期待する。また、備品の整備については、コミュニティ助成の利用を検討したい。	観光・ふれあい課 地域活性化事業費
地域掲示板設置事業	860	修繕料 840 補助金 20	755,000	修繕料 735,000 補助金 20,000	地域コミュニティ推進協議会の活動内容を地域住民に知らせるため、掲示板を設置する。また、地域団体と共に使用出来るようにする。	地域全体の掲示板が古くなってきた。地域・協議会の活動内容を知らせるのに、数多くの掲示板が必要になっていった。	4台設置した。地域によって場所的な問題が出て来ている。町内会・自治会・社協などと共に、協力して使用している。	地域と一緒に使って、使用しているのが少しだけ良くなって来ている。来年度の申し込みも多くなった。	地域にとっては、古くなって来ている掲示板の交換も必要であると思う。コミュニケーションを図る事も、一役かっている。来年度も進めたい。			掲示板を設置することにより地域内の広報活動に大きく寄与することを期待する。	地域分権・協働課 地域活性化事業費
地域内会館備品整備事業	2,117	庁用器具費 1,764 庁用器具費 353	1,895,376	庁用器具費 1,583,400 庁用器具費 311,976	利用者の利便性向上を目指し、南畑、秦野、花園、下渋谷の各会館に巾着のキャスター付を設置する。	各会館の重い机を軽量化するように要望があった。老人会・子供の要望も多かった。	南畑、秦野、花園、下渋谷各会館に幅広キャスター付きの机を設置した。	利用者から、軽くて設置しやすいと好評であった。各団体から幅広キャスター付き机は、会議の時に利便性がよくなった。	古い机の利便性も大切で、盆踊りや屋外でのイベントにも大いに必要であると思う。色々活用する為に地域と考えるべき。	各部会からの報告を受け、役員会でまとめたものを総会で決定する。		地域の利便性向上及び、地域の活性化につながる事業に取り組まれている。地域内会館への備品整備に関しては軽くて使いやすい机を整備され、お年寄り又は体の不自由な方に対する利便性向上につながるに感じている。フリーマーケットの開催では非常に盛況だったと伺っている。今後も継続していただきたい。	地域分権・協働課 地域活性化事業費 総務課 コミュニティ推進事業費
AED設置事業	330	器具費 300 補助金 30	321,657	器具費 294,000 補助金 27,657	共同利用施設に設置し、突然の疾病や事故に対処する。住民には普通救命講習の受講を呼びかけ方に備える。	地域の会館に順次設置して来たが、まだ設置していない所がある。また必要である。	要望があり秦野会館に設置した。	南畑会館・秦野会館と共同利用施設、合計4台設置したので、住民にも、安心感を持ってもらっている。	畑会館など、まだ施設に設置していない所もあり、地域と話し合いをもっと必要である。			共同利用施設に設置することにより、多くの住民の安心感を得ることができたと考える。今後も、AED設置・管理要領に基づき、維持管理、救命講習の実施に努めていきたい。	健康増進課 保健福祉事業費
交通安全看板設置事業	189	補助金 189	180,075	補助金 180,075	路地や三叉路等見通しの悪い箇所に、融解溶着型ストップマークを表示して、交通安全意識の向上を図る。	ストップマークの剥がれが多くなり、張り直しが多くなった。	22年度に渋谷地区をやって、23年度は旭丘・畑地区を融解型に切り換えた。	ストップマークは融解型に切り換えたので、子ども達の意識が良くなった。	交通安全意識の向上を図る。			見通しの悪い箇所では、まず立ち止まって安全を確認するという意識を育て、交通モラルの向上に寄与した。	交通課 土木事業費
校区盆踊り大会事業	110	補助金 110	109,504	補助金 109,504	地域のスポーツ振興会、子供会等の共同開催を支援する。コミュニティ意識の高揚を図る。	スポーツ振興会・子供会等で、開催している。コミュニティの意識の高揚を図る。	共同開催を支援し、参加数が増えて良かった。	盆踊り備品を揃え、スポーツ振興会・子供会への支援が充実したと思われる。	まだまだ安全性を考えれば、古くなった危険性のあるものの備品交換していく必要がある。			コミュニティの結束に貢献している。	観光・ふれあい課 地域活性化事業費
市民レクリエーション大会事業	225	行事報償金 225	225,000	行事報償金 225,000	地域のスポーツ振興会、子供会等の地域団体が開催する事業を支援する。スポーツ意識の高揚に努める。	スポーツ振興会が教育委員会からの行事報償金で市民運動会を開催している。	校区で開催される市民レクリエーション大会の運営費の支援を行った。	地域住民の健康と交流の深まりがあった。	地域住民の多くの人々の参加が望まれる。			多数の地域住民の参加によりスポーツをとおして、地域交流や健康・体力づくりが促進された。今後も地域の実情にあった大会運営で、さらに個性あるまちづくりを進めていきたい。	生涯学習推進課 教育事業費
自然学習講習会・昆虫育成等事業	300	補助金 300	285,958	補助金 285,958	地域特有の自然と触れあい、自然の学習を学び、親子のふれあいの場を提供する。	カブトムシ親募集及びスタンプラリーは2年目である。	カブトムシ親(71名)カブトムシの成虫、一対配布をした。幼虫を養育場に返還した。鉢塚・緑丘、五月丘コミュニティで三者スタンプラリー開催した。	生き物に関心をもち、命の大切さを勉強した。秦小校区のスタンプラリーは、中学校区になり、児童には新しい発見が楽しめていた。	カブトムシの継続は、大切であるが配布だけでは考える課題はある。「自然学習」として、観察(山・川・池)が必要になって来ると思う。			カブトムシをきっかけに昆虫の育成のみならず親子や地域とふれあう機会があり、子育て世代への支援にもなっている。	みずとみどりの課 土木事業費
公園内水道設置事業	2,450	修繕料 2,450	2,450,000	修繕料 2,450,000	子ども会や自治会の要請を受け東畑公園、西畑公園の設備を充実を図る。	3年前からの自治会・町内会より要望があり、特に年少者の利用には絶対必要ではないか、と意見が数多く出ていた。	東畑、西畑両公園に設置した。冬場の凍結で栓が故障したが、地域には喜んでもらっている。	盆踊りなど行事にも使っている。子供や年少者親子にも、喜んで良く使ってもらっている。	夏の暑い時期に、水遊びなどで遊んでいる。地域で注意しながら、良い使用を考えていく必要がある。			水道の設置で、公園遊びの衛生面は向上している。今後は、イタズラや水遊びが頻発しないように、地域と行政が連携していく必要がある。	みずとみどりの課 土木事業費
計	9,124		8,747,060		次年度繰越金額 230千円								

北豊島地域コミュニティ推進協議会(事業提案年度額 9,297千円:うち17千円は繰越)

事業名	予算額(千円)		決算額(円)		概要	実施前の状況	実施後の状況	事業の効果	今後の課題等	協議会における評価方法	市の総合評価	市担当課の評価	所管課
	説明(千円)		説明(円)										科目(目)
地域コミュニティ推進協議会事務事業	100	交付金 100	100,000	交付金 100,000									地域分権・協働課 地域分権総務費
地域コミュニティ紙等発行事業	660	補助金 660	648,270	補助金 648,270	地域コミュニティ推進協議会の活動内容を広く地域住民にPRするため、地域コミュニティ紙を全戸に配布する。	地域コミュニティ推進協議会の活動状況又は内容について以前よりは認知度が上がってきているがまだ低く感じている。	コミュニティ推進協議会がどの様な事業を行っているのか、ご理解を頂くことと委員の募集を兼ねて2ヶ月に一度いけだ広報に同封して地域に住民に配布した。	23年度は7回発行、北小校区約6,800世帯に配布。配布回数を重ねることに認知度は高くなってきていると思います。	協議会活動が高まっているが依然低迷の状態。他の媒体を利用してはどうか。一方、紙面制約はあるが記事内容に活動状況、防犯状況、地域の情報等の充実とカラー化等改善を加えていきたい。			地域分権・協働課 コミュニティ推進事業費	
きたてしまプラザ活用事業	7,035	修繕料 4,500 補助金 2,535	5,984,919	修繕料 3,855,582 補助金 2,129,337		旧公民館を再利用許可いただきコミュニティ推進協議会の活動拠点として週6日開館しております。	空調機改修工事が進み、使い勝手及び省エネ化が実現した。また2階トイレのバリアフリー改修工事も完了し、プラザ利用者から好評を得ている。利用申込参加者も非常に増えてきている。	週6日開館し、利用者年間9,285名があり、地域住民相互の交流の拠点等により地域の住民の健康、福祉向上に寄与している。	空調機の改修によって館内全てが単独運転可能となり省エネ化が図れる。または避難施設に指定されており、耐震について調査が必要。躯体を朽化により漏水が起きているので改修工事を推進する。			総務課 コミュニティ推進事業費	
地域行事活動促進事業	60	補助金 60	51,636	補助金 51,636	校区盆踊り大会等地域内行事に必要な備品等を購入する。	地域住民のコミュニケーションを図る場として盆踊りや校区内イベントがあり、各地とも低予算で運営されているため備品を揃えることが出来なかった。エコカーニバル参加時備品等揃えることが出来なかった。	事業執行によって少ないながら地域行事、エコカーニバル用備品を揃える事が出来た。	各行事とも多くのかたがたの参加によりコミュニケーションが図れた。	多くの参加があったといえ、地域から見た場合まだ参加者が少ないので参加者増員方法を考えていく。			観光・ふれあい課 地域活性化事業費	
AED配置事業	384	器具費 384	362,250	器具費 362,250	住吉地区の住民が多く集まる施設に配置する。住民に使用方法の講習会を実施する。	高齢者の利用が多い。共同利用施設住吉会館内に心臓疾患等による救急発生設備がなかった。	共同利用施設住吉会館一階ロビーに設置。設置後平成23年9月17日に池田市消防署救急救命士による講習を受け、緊急時のAED使用手順、救助の仕方を学習出来た。	心臓疾患での急患に対応が可能になったことで安心感が出来た。	地域内利用率の高いと予想される施設には今後も増設したい。いざという時にAEDが正常に作動するよう点検が必要。ランニングコストが必要。出来れば毎年AED使用再講習の受講。			保健福祉事業費	
子育て支援事業	430	補助金 430	430,000	補助金 430,000	毎週3回5時間 あそびの広場を開催し、紙芝居や絵本、TVシアター等親子のふれあい遊びと子育ての悩み等を語り合い、保護者同士が楽しく、自由に過ごせる時間をつくる。	当地域には以前から未就学児に対して子育て施設が無く、公的支援のない中、子育て中の母親より、子育ての仲間、グループ設立の要請でロケットキッズが設立され、当協議会が事業として支援をする。	ある人が中心でプラザ内の一室を開放しロケットキッズが運営され、年間未就学児とその保護者1,707名の参加があり、子育ての悩みなど話し合え、好評を得ている。	母親たちにも好評で幼児を明るく元気に育て、自分自身の子育ての悩みなど共通した話題が出来、参加者も年々増えつつある状況で事業効果は上がっている。	ある人を中心に事業活動を展開しているが内容から見ても無償活動には限界があるように思う。出来れば人件費ぐらいは公的支援援助。			子育て支援課 保健福祉事業費	
市民レクリエーション大会事業	35	行事報償金 35	35,000	行事報償金 35,000	住民コミュニケーションを図る、校区レクリエーション大会に必要な備品の購入を行う。	スポーツ振興会が教育委員会からの行事報償金で市民運動会を開催している。	校区で開催される市民レクリエーション大会の運営費の支援を行った。	地域住民の健康と交流の深まりがあった。	地域住民の多くの人々の参加が望まれる。			生涯学習推進課 教育事業費	
豊島北2丁目公園花いっぱい整備事業	110	補助金 110	90,520	補助金 90,520	公園を憩いの場として、よりよい環境づくりの推進を図るため、園芸高校の生徒達の協力を得て、花壇の整備維持を行う。	遊具、花壇等の整備も完了し、明るい開放された公園、地域住民憩いの場、子ども達の遊びの場として多くの人々に利用されている当公園の維持管理を事業として推進している。	花壇土壌の改良作業、補栽作業、休憩ベンチ上部日除改修を行い、年2回園芸高校先生、生徒さん達の指導による地域住民の花壇花植替え作業等維持管理を行った。	花が咲き乱れ、住民の憩いの場、高齢者の散歩途中での休憩所。子供たちには明るく安全で楽しい公園として評価されている。	子ども達が利用する遊具に問題がないか日頃から点検が必要。園芸高校の生徒達と地域住民の協働で今年も年2回花の入れ替え作業を行い、夏季の水やり、花壇の整備維持管理等も実施する予定。			みずとみどりの課 土木事業費	
公園バスケットコート環境整備事業	444	補助金 444	268,458	補助金 268,458	青少年の健全育成を図るため、清掃用具の購入、電波時計の設置と時間外侵入者防止用扉の開閉管理等を引き続き行う。	バスケットコート(3on3コート)開設後、スポーツを通じたコミュニケーションと子供の育成を図る場所として、多くの子供たちに利用されている。以前問題になった近隣住民にボールのバウンド音騒ぐ声等については防音防止用シート設置後低減している。	公園内に電波時計を設置し、利用者がコート利用時間が確認できるようになった。コミュニティ協議会会員による扉開閉管理、フェンス柵、フェンス扉の開閉により時間(午前8時～午後8時)管理。	開場時間を扉等で管理する事によって利用時間外侵入者防止が出来健全な子どもたちのコミュニケーションの場が出来た。設置された電波時計によりバスケットコート利用時間が確認でき、退場時間が明確となり、騒音については以前より低減出来た。	バスケットの管理補修(ゴールネット破損等交換作業、騒音防止用シート保全管理)、場内の清掃整備。			みずとみどりの課 土木事業費	
計	9,258		7,971,053		次年度繰越金額 39千円								

これは地域コミュニティ推進協議会(事業提案年度額 9,065千円)

事業名	予算額(千円)		決算額(円)		概要	実施前の状況	実施後の状況	事業の効果	今後の課題等	協議会における評価方法	市の総合評価	市担当課の評価	所管課
	説明(千円)		説明(円)										科目(目)
地域コミュニティ推進協議会事務事業	100	交付金 100	100,000	交付金 100,000									地域分権・協働課 地域分権総務費
地域コミュニティ紙等発行事業	460	補助金 460	423,840	補助金 423,840	地域コミュニティ推進協議会の活動内容を広く地域住民にPRするため、地域コミュニティ紙を発行する。また、アンケート調査を実施する。	協議会の存在や活動内容について、徐々に理解してもらっている。	校区に居住する住民に、協議会の活動報告やアンケート調査の実施により、協議会の活動について理解を得たり、地域住民の考え方などを知ることができた。	校区に居住する住民に、協議会の活動内容を周知することにより、理解、協力と参加を促進することができた。	今後も益々内容の充実を図り、毎年実施している事業のお知らせや協議会への参加を促進していきたい。			アンケートの実施等広報紙作成に関して工夫を成されているところがある。今後も継続して実施していただきたい。	地域分権・協働課 コミュニティ推進事業費
青パト隊パトロール車購入事業	310	補助金 310	309,943	補助金 309,943	青パト隊による地域巡回活動を行い、各種犯罪の抑止効果を図る。安全な地域環境をつくる。	新規購入した青パトでの呉服小学校区の巡回パトロールの実施により、各種犯罪の抑止効果を図る。	パトロール隊のベストの購入により、隊員の自覚を高め、巡回回数や巡回範囲の拡充を図ることができた。	呉服校区内の細い道まで巡回範囲を広げることにより、各種犯罪の抑止に車両を活用できた。	より一層の巡回の充実を図る。			日々の地道な活動の成果により、小学校区内でパトロールの認知が高まるなど、犯罪抑止に繋がっていると同評価している。	危機管理課 安全防犯事業費
地域コミュニティ推進協議会拠点整備事業	200	補助金 200	197,980	補助金 197,980	呉服会館の一室に、活動拠点を設ける。地域活動の活性化を図る。	共同利用施設呉服会館の1室を利用し、地域コミュニティ推進協議会の活動拠点とするため、部屋の整備をする。	共同利用施設呉服会館の小会議室を拠点とした地域活動の活性化を図られた。	協議会における役員会や各部会の活動が活発に展開され、地域分権推進に多めに役立っている。	小会議室の再整備と備品購入で協議会活動の更なる活性化を図る。			協議会拠点整備がされてつつある。今後も協議会内で検討され事業実施していただきたい。	地域分権・協働課 地域活性化事業費
地域内会館備品整備事業	2,000	庁用器具費 2,000	1,890,000	庁用器具費 1,890,000	地域住民の利用度の高い施設(桃園、宇保岡会館)の老朽化した会議用机の取替えを行う。	地域内の共同利用施設桃園会館と宇保岡会館の会議用机が老朽化しているため、利用者から買い換えの要望がある。	共同利用施設桃園会館と宇保岡会館の老朽化した会議用机を新規に買い換えることにより、利用者の賛許の声が届いた。	以前の机は老朽化が激しく、重くて利用者であるお年寄りには負担であった。綺麗で軽量化された机は大いに歓迎されている。	地域の共同利用施設の備品も買い換えを検討していきたい。		お年寄りにも好評というところで整備が成功だったと考えている。	地域分権・協働課 地域活性化事業費	
地域掲示板設置事業	1,750	修繕料 1,750	1,386,000	修繕料 1,386,000	老朽化した地域自治会の掲示板を取り替え、地域の広報活動に寄与する。	地域内の自治会の掲示板の老朽化が激しいため、広報活動に支障があった。	老朽化した掲示板に変わり、新たに設置した掲示板は、ワイドで大きなポスターも充分貼る事が出来、住民からも賛許の声があった。	ワイドで見やすい掲示板に付け替えたため、地域の広報活動が活性化した。	地域のお知らせや地域コミュニティ推進協議会の活動も、この掲示板を通じて地域住民に広く知らせることができる。今後も広報活動の充実を図って欲しい。			今後も広報活動の充実を図って欲しい。	地域分権・協働課 地域活性化事業費
文化祭開催実施事業	800	補助金 800	838,102	補助金 838,102	校区住民が参加する文化祭を開催する。地域住民のつながりと地域の活性化を図る。	校区内での文化祭は、前年まで盆踊り大会を実施していたが、今年度は趣を変えて実施した。	呉服小学校の吹奏楽や子どもファッションショー等を開催する事により、校区に一体感が生まれた。	開催内容(県小吹奏楽の演奏、子どもファッションショー等)の検討や準備を校区の住民と協力しながら行うことにより、人間関係も構築され連帯感が生まれた。	流し素麺は県小児童と先生による自主的な作品を考えると、本当に地域に合ったイベントであり、より一層の連帯感を生み出した。			住民が積極的に祭りに参加していて、地域の連携に貢献している。	観光・ふれあい課 地域活性化事業費
地域イベント整備事業	700	庁用器具費 700	319,935	庁用器具費 319,935	校区住民が参加する地域イベント等で使用する TENT を購入する。	校区の住民が参加するイベントでの備品等が不足しているため、新規購入を図る。	地域住民がイベント等で使用する大型 TENT を新規購入する。	校区での防災訓練などで大型 TENT を利用した結果、利用者から喜ばれ、更なる連帯感が生まれた。	地域の連帯感を更に強める意味でも、合同で各種イベントを開催するためにも、更に新規備品の充実を図る。			地域のイベントに寄与しており、更なる活用を期待する。	観光・ふれあい課 地域活性化事業費
県小吹奏楽クラブ支援事業	300	器具費 300	300,000	器具費 300,000	県小吹奏楽クラブの老朽した楽器を買い替える。団体の活動支援を行う。	呉服小学校の吹奏楽クラブの楽器が老朽化していて、正確な音程が出せない状態である。	老朽化した楽器を新規購入することで、古い楽器を新しく入ってくる児童の練習用に活用している。	新しい楽器演奏で技術の向上に役立つこと、練習用の楽器ができたことで更なるレベルアップが図れる。	老朽化した楽器を年次計画(3~5年)によって新規購入を図る。	各事業責任者の意見を聴き、協議会で決定する。		楽器の購入は吹奏楽クラブの活動の支援だけでなく、地域行事に参加するなど地域と学校との連携も図れると考える。	管理総務課 教育事業費
市民レクリエーション大会事業	150	行事報償金 150	150,000	行事報償金 150,000	地域のスポーツ振興会等が開催する事業を支援する。コミュニティ意識の向上に努める。	地域のスポーツ振興会が開催している市民レクリエーション大会に、池田市が報奨費として支出していた。	池田市に代わり、当協議会が行事報償金として支出する。	市民レクリエーション大会に当協議会が参加することでコミュニケーションの向上が図れる。	他地域の行事報償金とも検討し、校区の市民レクリエーション大会が活性化するよう努める。			地域住民が多数集まり、地域交流と体力づくりが促進された。今後もよりきめ細かいまちづくりのための一助としての大会運営に期待する。	生涯学習推進課 教育事業費
グリーンベルト設置事業	1,200	請負費 1,200	936,991	請負費 936,991	通学路にグリーンベルトを設置する。歩行者・運転者の交通安全意識の向上を図る。	児童が通学する道路が車歩分離されていなくて、交通事故等に遭う可能性のある危険な通学路である	通学路にグリーンベルトを敷設することで、児童の安全性が図られる。	通学路にグリーンベルトを敷設することで、歩行者・運転者の交通安全意識が向上した。	危険な通学路から児童の命を守るため、今後もグリーンベルトの敷設を進めていく。			歩行者の通行帯確保による安全意識の向上及び通行車両への運転マナーの向上に一定の効果があったと考えている。	道路課 土木事業費
歩行者用ストップマーク設置事業	187	補助金 187	185,850	補助金 185,850	児童が登下校の際に利用する通学路にストップマークを設置する。歩行者の交通安全意識を啓発する。	児童の登下校時に利用する通学路で、交通事故が発生しないかと気になる危険な箇所がある。	児童の通学路の安全確保のため、車道と歩道との境に安全ポールを設置する。	ストップマークを設置したことにより、子ども達がその場で一旦立ち止まる事により、交通事故を回避できる。	地域内には、まだまだ危ない箇所があるので、順次設置に向けて対応したい。			事故の防止効果に加え、危険箇所では安全確認をするという意識づけを児童に対して行うことができた。	交通課 土木事業費
通学路の安全確保事業	140	請負費 140	109,316	請負費 109,316	通学路の安全を確保するため、車道と歩道との境に安全ポールを設置する。	通学路の安全を確保するため、車道と歩道との境に安全ポールを設置する。	通学路の安全を確保するため、車道と歩道との境に安全ポールを設置する。	安全ポールを設置することで、歩行者と自動車の間隔が確保され、交通事故の発生を防止することができている。	地域内には、まだまだ危ない箇所があるので、順次設置に向けて対応したい。			安全ポール設置により、通学路の安全確保に一定の効果があったと考えている。	道路課 土木事業費
カーブミラー設置事業	548	請負費 548	427,893	請負費 427,893	交通事故防止のため、見通しの悪い交差点に設置し、交通安全を確保する。	児童の登下校時に利用する通学路に、見通しの悪い交差点があり、交通事故が発生しないかと気になっていた。	見通しの悪い交差点にカーブミラーを設置したことにより、交通事故から子どもたちを守ることができた。	カーブミラーの設置により、子ども達がその場の状況判断できるようになり、交通事故を回避できるようになった。	地域内には、まだまだ危ない箇所があるので、順次設置に向けて対応したい。			交差点内の交通安全性の向上に一定の効果があったと考えている。	道路課 土木事業費
街路灯強化事業	81	電気使用料 2 請負費 79	0	電気使用料 0 請負費 0	前年までの4年間引き続き実施してきた事業であり、住民要望をはじめ協議会での検討も含め、未実施箇所への設置を予定	夜間の事故や犯罪を未然に防ぐため、既存の街路灯の照度強化を行う。	住民要望が届かず、関係部局との協議も整わなかったため、今年度は未実施となった。	防犯意識の向上を図る予定であったが、今年度は評価ができなかった。	事業予定をしている事業が未実施にならないよう関係機関とも十分な打合せをしていく。			今年度は未実施であったが、住民要望や関係機関との円滑な協議が行われることにより、防犯意識が向上されることを期待する	道路課 土木事業費
道路看板設置事業	39	補助金 39	39,000	補助金 39,000	地域内の行き止まり道路に、車両が進まないように設置する。	地域内に行き止まり道があるにもかかわらず、表示がないため誤って進入する車両が後を絶たない。	「この先行き止まり」である旨の看板を設置することで、誤って進入する車両が無くなった。	誤って進入した車両が方向転換する際、近隣の花壇等を傷つけたりする事もなくなり、地域住民にとって安全な生活を保障することができた。	身近な問題の解決に向け、今後とも積極的に対応していきたい。			看板が設置されることにより、当初の目的が達成され、一定の効果があったと考える。	道路課 土木事業費
呉服小学校花いっぱい運動支援事業	100	補助金 100	100,000	補助金 100,000	地域と学校が一緒に実施する「みんなで育てる花いっぱいプロジェクト」活動の支援を行う。	昨年度より引き続き実施している事業で、地域と学校が一緒になって花を育てる活動を支援する。	「みんなで育てる花いっぱいプロジェクト」活動を支援する。	呉服小学校と地域が一緒になって花を育てるプロジェクトに参加し、子ども達が花を育てる喜びを感じ、感性豊かな心を育む事が出来た。	感性豊かな子どもたちを育ていく事業にも、今後とも積極的に対応していきたい。			防犯上、学校が閉鎖的な場所になっている中、花いっぱい運動により学校と地域の橋渡しとして効果をもたらしている。	みずとみどりの課 土木事業費
計		9,065		7,714,850									

石橋地域コミュニティ推進協議会(事業提案総額 8,811千円)

事業名	予算額(千円)		決算額(円)		概要	実施前の状況	実施後の状況	事業の効果	今後の課題等	協議会における評価方法	市の総合評価	市担当課の評価	所管課	
	交付金	補助金	交付金	補助金									科目(目)	
地域コミュニティ推進協議会事務事業	100		100,000										地域分権・協働課 地域分権総務費	
地域コミュニティ紙等発行事業	500	補助金	500,000	補助金	500,000	協議会活動等を広く地域住民に周知するために発行している。	23年度は、年3回の発行を行った。	広報紙に池田警察署の防犯発生状況を掲載することで地域の防犯意識を高めることが出来た。	広報紙の紙面を見直し、より分かりやすく、効果が高められるように工夫をする。			地域分権・協働課 コミュニティ推進事業費		
地域防災体制強化等事業①	1,180	器具費	1,180	745,500	器具費	745,500	活動を開始する。自主防災組織の体制強化を図るため、防災用備品などを納める倉庫を校区内(4か所)に設置する。	校区内には自主防災組織がなかった。	石橋2丁目、井口堂1・2・3丁目、旭丘3丁目「石橋自主防災会」が、コミュニティ安全部会内に組織化した。4地域合計1,500軒を越えた。また防災備品を揃えていく上で、各地域1箇所の防災倉庫を設置した。	石橋小学校、井口堂北会館等に分散して預かってもらっていた。防災備品を収納する事が出来、各倉庫の表裏に「石橋自主防災会」と明記したことにおいて地域住民が改めて認識する事が出来た。	倉庫としては、初期の段階から要望されていた「井口堂団地」内に1個小ふりの倉庫を設置する事です。	地域内の防災備品を適切に配備・管理することができ、万が一の際に適切に利用されることを期待する。	危機管理課 安全防災事業費	
地域防災体制強化等事業②	2,000	補助金	2,000	2,000,000	補助金	2,000,000	活動を開始する。自主防災組織の体制強化を図るため、倉庫に防災用備品を配備する。	石橋北会館、井口堂北会館、旭丘会館、石橋公園の4か所に防災倉庫を設置した。	防災倉庫に防災、減災を目的として防災用品を購入して納入を終えた。なお、4か所の備品目録も作成して管理をも図っている。	防災備品を活用し、訓練を行うことで防災倉庫管理責任者及び安全部会員を始めとして地域住民にも防災・減災と危機管理に対する取り組みへの意識付けが浸透していくことを期待しつつ取り組みたい。	今回は安全部会員を中心に防災用品を取り揃えたが、今後は幅広い層の意見もお聞きし備品の拡充を図っていくとともに、いざというときに活用出来る体制を構築していきたい。	防災資機材倉庫の整備を行い備品を配備できた。また、備品を活用した訓練を実施するなど、今後万が一災害が発生した時に有効活用できることを期待する。	危機管理課 安全防災事業費	
地域掲示板設置事業	600	修繕料	600	567,000	修繕料	567,000	地域コミュニティ推進協議会の活動状況等を地域住民にPRするため、掲示板を設置する。重点箇所から年次計画で整備する。	既設分H20年度7台H21年度7台H22年度3台当該地区には他に、社会福祉協議会で8ヶ所、自治会で4ヶ所、池田市と大阪府の団地の掲示板が2ヶ所設置されている。	23年度に3ヶ所に設置した。①、石橋公園西側入口付近(池田高道万寿荘近く)②、井口堂2丁目旧花園団地付近③、旭丘3丁目池高プール付近4年間計20台を設置した。	掲示板の役割を果たしつつあり、今年度は次のような石橋小学校新聞、石橋中学校行事案内、老人大学いけるキャンパスの案内等を掲示した。	掲示板が老朽化しているものもあり取替を検討している。地域のバランスをみて24～25年度の2年間で5台ぐらいの予定である。	掲示板を設置することにより地域内の広報活動に大きく寄与することを期待する。	地域分権・協働課 地域活性化事業費	
地域イベント等の整備事業	155	補助金	155	155,000	補助金	155,000	地域内行事に使用される各種備品類は破損等老朽化が進んでいる。更改を行いコミュニティ活動の充実を図る。	地域大運動会で使用していた万国旗が大変古く、ビニール製のため破れたり、国旗が欠けたりして、見栄えが悪くなっていた。	万国旗を買換えたことにより以前のものより大きく見栄えが良くなった。また、布製なので破れにくく取り扱いがよくなった。	運動会を盛り上げることが出来た。	地域レクリエーションの備品等の老朽化が進み、今後も少しずつ更新して、書くレクリエーション行事を盛り上げて参加者の拡大を行ってきたい。	地域イベント備品の整備により、地域住民がスポーツやイベントを通して地域の活性化と健康づくりに親しめる環境が促進された。	生涯学習推進課 教育事業費	
地域行事等活動促進事業	30	補助金	30	30,000	補助金	30,000	納涼大会等を実施する地域団体に活動運営を支援して、コミュニティ活動の充実を図る。	地域の納涼大会は、盛大に行われているが、昨今運営が厳しい状況にある。	納涼大会は、地域の各種ボランティア団体で実行委員会を構成している。今回の補助金は、大会プログラムの員外費の一部に費やした。	昨今の厳しい状況から運営資金面の確保に苦慮しており、事業の効果は大である。	運営資金の確保が難しいので、協議会の絶大なバックアップが必要である。	地域交流の促進に貢献している。今後のコミュニティの更なる発展を期待する。	観光・ふれあい課 地域活性化事業費	
リサイクル活動事業	30	補助金	30	30,000	補助金	30,000	指定容器等を校区内の5か所に配置し、ペットボトルのキャップを回収する。	ペットボトルキャップの回収リサイクルを、資源の有効利用を同時に、住居に依頼し、キャップ回収に応じて年度末集計し、スプランナーを渡した。	資源回収の意識が増大、指定容器配置8ヶ所となる。キャップ分別作業を東山作業所に依頼し、キャップ回収に応じて年度末集計し、スプランナーを渡した。	今までゴミとして捨てられていたキャップがスプランナーとして住民に戻ってくることで、資源の回収意欲が高まってきた。	容器配置場所の拡大と広報活動の充実を図る。	環境にやさしい課 環境衛生事業費		
市民レクリエーション大会事業	70	行事報償金	70	70,000	行事報償金	70,000	地域のスポーツ振興会等が開催する事業を支援する。スポーツ意識の向上に努める。	昨今の資金が厳しい状況から、地域分権制度を運営補助金として活用し、コミュニティ活動の充実を図る。	運動会は1,000名を超える人達の参加で、毎年盛大に行われている。今回の補助金は大会プログラム印刷代の一部補助に使われた。	地域のスポーツ振興会が主催する事業を支援するとともに、スポーツ意識の向上に努めた。その成果は代である。	大会運営費の殆どは地域の皆様からのプログラム広告代収入により行っているが、昨今の厳しい状況から今後とも協議会の支援活動が必要である。	毎年多くの地域住民が参加する行事で、今年度から地域分権事業として実施された。これまで以上に地域住民のニーズに添った事業展開がなされた。	生涯学習推進課 教育事業費	
AED設置事業	384	器具費	384	362,250	器具費	362,250	地域行事等の傷病発生時に早期の救命措置を行うため、共同利用施設(1台)に順次配置する。	校区内の会館にAEDの設置が1ヶ所のみでほかの会館には未だ設置が無かった。	石橋北会館にAEDを設置することが出来た。緊急時の使用が可能になった。	利用客も多く、人の出入りが多いので緊急時の対応に対応できるようにしていきたい。	校区内の各会館に1台づつ設置を実施して緊急時の対応に適切できるようにしていきたい。	健康増進課 保健福祉事業費		
教育問題等講演会開催事業①(子どもと高齢者との協働作業等)	130	補助金	130	130,000	補助金	130,000	身近な自然の再生(箕面川)で遊ぶ環境づくりを行う。また、高齢者の持つ手作り文芸活動(折り紙、地域の草花)と身近な生活習慣の事柄について知識を深める。	近年、子ども達はゲームなど遊ぶ場所が多く、友達と自然の中で遊ぶ機会が少なくなっている。一方高齢者は色々な知識を持っているが、子ども達と接する機会が少なかった。	地域住民に普通遊びを呼びかけ、校庭や体育館で竹細工、紙鉄砲、竹笛、ゴム鉄砲、スローボール投げなどを教えるもいとも遊んだ。一方会員と地域住民で焼き芋とフライドポテトを作った。	子ども達は自然のものをおもちゃにするという不思議さに目を覚まし、大人も昔を思い出して、子育てや今昔の暮らしを話して地域コミュニケーションを深めた。大人と子ども達の距離が近づいた。	様々なイベントを催し、地域のコミュニケーションを広げたい。	各部会でまとめられたものを、役員会で決定する。	箕面川清掃は地域・学校・保護者、各種団体との協働で行っており、その際必要な清掃道具の整備は今後も有効に活用されるものとして評価できる。高齢者からの普通遊び等の伝承は、地域の大人と子ども達のコミュニケーションを深める意味あるイベントとなり、大変評価できる事業である。	青少年センター 教育事業費
教育問題等講演会開催事業②(食育等の講習会他)	15	補助金	15	15,000	補助金	15,000	子どもたちや地域の人々に、一家庭で楽しむ食育や紙芝居等の講習会を開催して、地域コミュニティ活動の啓発となる機会を設ける。	石橋公園で紙芝居を行う前にチラシ配布等事前準備を行った。	紙芝居に子ども、大人を含め210名に喜んでいただけた。アルファ米を使いおにぎりにして参加者に食べていただいた。	紙芝居を通じて、親子のつながりの時間が持たれた。また、アルファ米の試食により、市の備蓄米の存在を知ってもらった。	来年に降雨天時の場所の確保を検討する必要がある。	石橋公園のリニューアルに際し、昔懐かしい紙芝居の披露や市の備蓄米を使用しておにぎりを用意等、多くの地域住民が楽しめる有意義なイベントとなり、大変評価できる事業である。	青少年センター 教育事業費	
子どもの安全に対する事業	210	補助金	210	210,000	補助金	210,000	見守り員に文字入りジャンパーを購入することにより、地域住民の安全意識の高揚を図る。	地域住民が石橋小学校の通学児童のボランティア見守り隊として朝、6ヶ所の交差点に立って交通整理等を厳密に小旗で行っているため児童、見守り隊員共の安全対策と考えた。	事業内容は見守り隊員が着用する赤色のウインドブレーカーを購入した。通学誘導の実施状況が安易になった。	交通誘導がスムーズで道路横断に協力的になった。ウインドブレーカーを袖及び背中にも着用し、通学児童の安全確保に貢献した。	見守り隊員の高齢化により新規参加者を増やすことと安全を図る交通整理の小道具類(誘導棒、笛等)類を揃えたい。	石橋小学校校区では、地域ボランティアの方々が、見守り活動を熱心に行っていた。されており、その際に使用するウインドブレーカーは、地域住民からも認知され、誰か見てもらいやすく地域の安全を守る上でも有効なグッズとなっており、評価できる。	青少年センター 教育事業費	
交通安全モラル教室事業	100	補助金	100	100,000	補助金	100,000	自転車の交通安全を体験して、子供と大人が協働して交通安全モラルの啓発を図る。	石橋小学校の3年生や石橋文化幼稚園の入園児を対象に自転車の乗り方等を安全教室を、宜真航行で一般住民を対象に11月に自転車競技を実施している。	親子が参加しての交通安全教室を開催し、池田警察署から自転車事故の事例の紹介を行い、参加者は事故のドキュメントを鑑賞することで恐怖しさを実感した。	100名ほどが参加し、当初の目標は達成できた。最近でも自転車事故が多発しており、皆が自転車についての危険の認識を深め、正しい乗り方について身に付けてほしい。	たかが自転車という意識はなかなか払拭できない。石橋小学校では最近交通安全子供自転車大会に参加実績がある。競技を通して自転車の楽しさを学んでおり、この企画と結合できればと考える。	自転車運転者は被害者にも加害者にもなる可能性がある。教室を通して、自転車の運転に伴う危険性(目をむく、今後の安全な自転車利用)に貢献したい。	土木事業費	
公園整備事業	2,000	修繕料	2,000	1,764,315	修繕料	1,764,315	石橋公園は校区の中心にある。地域の各行事等イベント会場としても機能している。地域住民のニーズにあった楽しい遊びや癒しの場としての施設にするため、引き続き総合的な改修・整備をする。	石橋公園のベンチが少なく外周欄も古くさびていた。	石橋公園にシロフォンベンチを5台を増やし、うち2台を落葉のたにに設置した。歩道に歩道もまたマアアしている。外周欄も改修を実施して公園自体のメリアリが利いている。	ベンチの数としては多すぎと言う感じはなく、地域住民に喜ばれている。外周欄は黒色にしたのが良く、通行人にとっても、安全で、全体像を見るのにも公園の兼ね合いも見ながら整備を進めていく。	公園整備事業としては3～5年計画で整備していく予定。現在、2年が経過したところだが、地元住民の利用者の意見を聞きながら今後の課題等、予算との兼ね合いも見ながら整備を進めていく。	公園づくりは、整備することが目的ではなく、公園計画の中で、地域住民と関わりながら、進めたい。整備後利用者や地域住民が関心や愛着を持って大切に利用しつづけたらという気持ちが大変。今後も地域住民の活動を支援したい。	みずとみどりの課 土木事業費	
ガーデニング教室開催事業	200	補助金	200	200,000	補助金	200,000	寄せ植え教室とガーデニング教室を開催し「花を育てて心癒やまらう」を目標とする。花を通して、地域住民のコミュニティの輪を広げる。	初年度6月に「やさしい花づくり」、11月に「ハンギングバスケットの作り方」、昨年5月に「美しいハーブの育て方」、10月に「種から育てる秋まきの草花」のタイトルで今まで4回実施した。	毎回参加して下さる人もあり、またその人が知り合いの方や、友人を誘っていたりして大きな輪の広がりが感じられる。また掲示板で見たらといって近隣の方も参加されるケースもできた。	若い主婦の方も参加していただければとの思いがある。	ガーデニング教室を開催することで、様々な人に花に興味を持ってもらい、自宅等で育ててもらって、地域の緑化に効果がある。	みずとみどりの課 土木事業費		
道路安全対策事業	840	請負費	840	544,950	請負費	544,950	地域住民、児童の登下校時の安全を図るため、カーブミラーの設置等交通安全施設の整備を行う。	地域住民・児童の登下校時の安全をはかる。	井口堂団地より街道丁字路に両面ミラー設置及び版急バスと地域住民との協議で東側、片方のグリーンベルトの歩行者設置を実施した。	地域住民の安全・安心の意識向上と自転車運転者等に安全意識を持たせる。	歩行者、自転車、車の安全通行マナーを呼びかけていく。	グリーンベルト設置に伴って歩行者の通行帯確保、またカーブミラー設置に伴う交差点内の安全性向上に一定の効果があったと考えている。	道路課 土木事業費	
公共施設等案内表示板の設置事業	100	補助金	100	99,750	補助金	99,750	交差点等主要な場所に、地域外のドライバーからも分かりやすい案内表示板を設置する。	校区内では公共施設の表示板がない場所では通行人、車の利用者が場所を探すのが大変であった。	案内表示板を石橋公園付近に設置した。	通行人にもよくわかると評価していただいた。	今回設置したものは、維持管理が必要になってくると思う。また数箇所案内表示を設置しにくい場所があるので、事業を今後も続けていきたい。	公共施設の利用者の利便性を高めるために案内板を設置したことで、通行人やドライバーに対し効果的に周知されている。	道路課 土木事業費	
街路灯強化事業	150	電気使用料 請負費	3 147	199,050	電気使用料 請負費	0 199,050	地域の安全・安心の向上を図るため、防犯灯の整備を計画的に進める。	石橋小学校校区内を、夜中に巡回してみると、毎年度行っている事業にもかかわらず、やはり、照度不足の箇所がある。	今年度は、旭丘3丁目を中心に地元の方も一緒に夜中に巡回した。予算内で6箇所の照度アップを図ることが出来た。	特に池田高周園は、防犯上も明るくなるので、地元ともよく相談の上、改善していく必要がある。	校区内にはいまだに、暗くて危険な箇所があるので、地元ともよく相談の上、改善していく必要がある。	街路灯の照度アップ等により、地域内の夜間交通の安全確保が図られている。	道路課 土木事業費	
計		8,794		7,822,815			次年度繰越金額 17千円							

※道路安全対策事業と街路灯強化事業は一体事業

五月丘地域コミュニティ推進協議会(事業総額8,735千円)

事業名	予算額(千円)		決算額(円)		概要	実施前の状況	実施後の状況	事業の効果	今後の課題等	協議会における評価方法	市の総合評価	市担当課の評価	所管課 科目(目)
	説明(千円)		説明(円)										
地域コミュニティ推進協議会事務事業	100	交付金 100	100,000	交付金 100,000									地域分権・協働課 地域分権総務費
地域コミュニティ紙等発行事業	342	補助金 342	243,942	補助金 243,942	地域コミュニティ推進協議会の活動内容を広く地域住民にPRするため、地域コミュニティ紙を発行する。	コミュニティ紙はモノクロで自作制作し、委員が協力して地域の家庭に直接配布していた。	コミュニティ紙を業者に依頼してカラー化し、読みやすくと同時に地域内の配布も配布業者に依頼した。	コミュニティ紙にアンケート欄を設け、住民の意見を集めることも行ったが、住民の関心はいまひとつである。	折込広告と間違われぬように、コミュニティ紙の体制にまだ工夫が必要であるが、地域分権そのものを知らない住民が多すぎる。			コミュニティ紙によって住民に地域分権についての関心をもっていただくように努力していただきたい。	地域分権・協働課 コミュニティ推進事業費
地域防災訓練強化事業	30	補助金 30	10,975	補助金 10,975	防災意識向上のため、隣接地域と合同で防災訓練や勉強会を実施する。	五月丘地域3自主防災組織の合同訓練を実施するためのPRポスターの製作などアルピス自治会の費用で準備していた。	事業補助金を使ってPRポスター作成など開催の準備をしたので、各自主防災組織に自主意識が生まれた。	合同防災訓練の参加者が、今まで関心なかった五月丘1丁目、5丁目が増加し、防災意識の向上に繋がった。	継続することにより、住民全体に防災意識が広がるよう努力が必要である。			校区内の自主防災組織が合同で防災訓練を実施することにより、地域の連帯が生まれ、今後万が一災害が発生した時減災につながることを期待する。	危機管理課 安全防災事業費
子ども安全見守り隊強化事業	73	消耗品費 73	72,450	消耗品費 72,450	子ども安全見守り隊のユニフォームを購入し、登下校時の児童の見守りを実施して、犯罪の抑制を図る。	防犯協議会の防犯腕章を携帯して下校時の見守りを行っている。	事業実施前と同じ。防犯ユニフォームは、学校のイベント時にPTAが使用している。	携帯が容易な防犯腕章で目的は達しているため利用度は低い。	子どもの安全見守り隊のメンバーはボランティアでユニフォーム着用の強制は出来ない。隊員の賛同を得ずに強行したのが未着用の原因である。			子どもの安全見守り隊の防犯ユニフォームは、事前の周知が足りず、着用率が低い状況である。今後広くPRしていただければ着用率も上がると思われる。	青少年センター 教育事業費
電動自転車安全パトロール事業	226	器具費 206 補助金 20	218,800	器具費 198,800 補助金 20,000	坂道の多い五月丘地域内で、地域住民の協力を得て、安全パトロールを実施し、犯罪の抑制を図る。	坂道の多い地域なので、歩行による安全パトロールはほとんど行われていない。	小学校を保管場所としている関係上、警察OB出身の警備員や先生を中心に電動自転車を使った安全パトロールを行っている。	以前に比べパトロールの範囲が広がっている。	コミュニティ会員による安全パトロールの強化、休日の利用が制限される。			今後ともパトロール活動の強化に努めていただきたい。	危機管理課 安全防災事業費
避難場所案内看板設置事業	1,575	修繕料 1,575	1,260,000	修繕料 1,260,000	避難場所の経路を標示することにより、地域住民の日常の危機管理意識を高める。	住民に対する避難場所の周知は、防災組織を通じての書面や口頭等によって行っている。	地域内5箇所に案内看板を設置した。	災害に備えての環境整備が少しでも出来た。防災組織のない地域の住民にも災害に対する心理的な危機意識が生まれている。	看板の設置状況から、設置場所の認知度や危機管理意識を調べ、増設が必要か考える必要がある。			避難所案内掲示板を設置したことにより、万が一、災害が発生した時、避難場所の確認及び日常時の周知徹底に繋がると期待する。	危機管理課 安全防災事業費
緊急通報装置管理事業	1	電気使用料 1	876	電気使用料 876	緊急通報装置の電気代を賅う。	通報装置の電気代金であり、継続事業である。	通報装置の電気代金であり、継続事業である。	犯罪の抑止効果につながった。	通報装置の電気代金であり、継続事業である。			緊急通報装置の運用が、今後犯罪の抑止効果に繋がると期待する。	危機管理課 安全防災事業費
地域掲示板設置事業	600	修繕料 600	567,000	修繕料 567,000	地域コミュニティ推進協議会の活動内容を広く地域住民に知らせるため、掲示板を設置する。	コミュニティ協議会の活動内容を主体に地域福祉関係の行事案内なども掲示板で住民に広報している。	住民の通行ルートに掲示板のない場所、3箇所に新たに増設し、広報を充実させた。継続事業である。	掲示板の数が増えればそれだけの効果があり、公共的な活動グループからの掲示申し込みが増加した。	設置箇所が増えたと、期限切れ掲示書の廃棄や掲示スペースの調整などメンテナンスが大変である。もう少し大きな掲示板が必要かもしれない。			掲示版を設置することにより地域内の広報活動に大きく寄与することを期待する。	地域分権・協働課 地域活性化事業費
盆踊り大会支援事業	96	補助金 96	95,723	補助金 95,723	地域団体が実施する、盆踊り大会の運営にかかる経費の一部を支援する。	少ない予算の中で盆踊り大会を実施しており、提灯を初め、老朽化した設備を我慢して使っていた。	提灯、電球など消耗的な設備が一部更新され以前より明るい環境で、盆踊りが開催された。	大会に対する主催者の意気込みが増えたか、来場者が例年より増加し、盛況であった。	地域にとって数少ない恒例のイベントであり、他地域のように充実した設備にして大会を盛り上げていきたい。			盆踊り大会の開催が、地域活性化に貢献している。今後のコミュニティの更なる発展を期待する。	観光・ふれあい課 地域活性化事業費
市民レクリエーション大会事業	91	行事報償金 91	91,000	行事報償金 91,000	地域のスポーツ振興会等が開催する事業を支援する。地域コミュニティ意識の高揚に努める。	スポーツ振興会が教育委員会からの行事報償金で市民運動会を開催している。	市民運動会の経費の補助が地域分権の予算枠から支給されるという支給形態が変更されたことで実態に変化なし。	経費予算額がコミュニティ推進協議会の意思で決定出来るので、自由度が増した。	コミュニティ協議会のスポーツ振興会に対するかわり方、スポーツ振興会への支援金という形が望ましい。			幅広い年齢層が参加する地域イベントとして、今年度より地域分権事業で実施されることにより地域の実情に応じた予算措置により、地域住民のニーズに応じた運営がなされた。	生涯学習推進課 教育事業費
昆虫育成等講習会実施事業	320	補助金 320	312,442	補助金 312,442	五月山をカブトムシ等昆虫が生息できる環境整備を行う。昆虫を育成するための親子ふれあい講座を開催する。	地域内5箇所にカブトムシ産卵場の整備と子供たちを対象にしたカブトムシやクワガタの育て方講習会の実施。	妻野、緑丘との3地区合同の親子を対象としたスタンラリーを共同開催した。またカブトムシの産卵場を埋塚公園に1箇所増設した。	スタンラリーは初めてのイベントで目新しさもあって盛り上がった。埋塚公園の産卵場は、身近な場所ということで成果を期待している。	コミュニティ会員の高齢化もあって、過激な作業が難しくなってきた。産卵場の整備などは業者に依頼することになる。			カブトムシをきっかけに昆虫の育成のみならず親子や地域とふれあう機会があり、子育て世代への支援にもなっている。	みずとみどりの課 土木事業費
まちなみ花いっぱい整備事業	50	補助金 50	50,000	補助金 50,000	やまざくら通り等に花を植える。地域の人が花を育て、花を通じて人々の心を豊かにする。	公園等に花を植えて花を通じて快適な環境を作る。	公園での植栽のほか、小学校の花壇を整備して子ども達に授業の一環として花植えをしてもらう。小中学校に肥料や水の土の提供。	PTA、地域、生徒が協力して花植えを行うことにより、生命の大切さや豊かな心を育てる。	公園での花植えは水遣りなどの日常の管理がうまく機能しない。植えられた花が盗まれるなど問題あり。			各公園に花を植え、育てることによって、地域住民が緑化に関心を持つようになり、また、学校においては、防犯上、閉鎖的な場所になっている中、花いっぱい運動により学校と地域の橋渡しとして効果をもたらしている。	みずとみどりの課 土木事業費
公園整備事業	4,806	修繕料 4,806	4,799,702	修繕料 4,799,702	地域のふれあい拠点となる、埋塚公園、横岡公園、山之手公園を個々の特色を活かした整備を行う。	地域3公園に健康遊具設置をメインにした住民に快適な公園づくりを継続事業として行っている。	埋塚公園の園路改修、健康遊具設置、自転車置き場整備、横岡公園の照明灯設置、電波時計の設置、山の手の公園の水軟手洗場設置、転落防止柵設置を実施した。	子供たちを中心に住民が、より安全で快適に遊べる公園になり、利用者も増加している。	山の手公園への健康遊具の設置で公園整備事業は一応完了するが、健康遊具の利用状況が今ひとつであり、PRに努める必要がある。			地域のニーズにあったハード整備が順次進められている。今後は、健康遊具の正しい利用方法について、地域で講習会を開催するなど、設置した施設を有効活用し、地域が主体となったコミュニティの強化を行っていただきたい。	みずとみどりの課 土木事業費
スクールゾーン表示事業	250	請負費 250	166,950	請負費 166,950	通学時の安全確保のため、路面にスクールゾーンの表示を行い、歩行者、ドライバーに注意喚起を促す。	五月丘小学校の南門前を通過する道路で東から西へ下り坂になっており、登下校時には子ども達が道路を横断するので、危険を感じていた。	南門から東に約100メートル、道路にグリーン塗装が施され、スクールゾーンだとはっきりわかるようになった。	通行する車のスピードも落ちたように感じるので一定の効果はあった。	特になが、効果を見定めて南門付近でスクールゾーン表示を延長したほうが良いかもしれない。			地域内の通学路を路面標示することにより、通行車両に対し注意喚起を促し、登下校時の安全性向上に一定の効果があったと考えている。	道路課 土木事業費
街路灯強化事業	175	電気使用料 1 請負費 174	213,150	電気使用料 0 請負費 213,150	夜間の事故や犯罪を未然に防ぐため、既存の街路灯の照度強化を行う。	人通りの少ない道路で、街灯はあるが暗く、夜間帰宅時の安全性が問われていた。	既存設備の支柱が貧弱で、これまでの照度アップは出来ないので、強度のある街路灯に更新した。	大変明るくなって喜ばれている。	今後、問題箇所の洗い出しを行っていく所存。			街路灯の照度アップにより、地域内の夜間交通の安全確保が図られている。	道路課 土木事業費
計		8,735		8,203,010									

石橋南地域コミュニティ推進協議会(事業提案総額 8,803千円)

事業名	予算額(千円)		決算額(円)		概要	実施前の状況	実施後の状況	事業の効果	今後の課題等	協議会における評価方法	市の総合評価	市担当課の評価	所管課
	説明(千円)		説明(円)										科目(目)
地域コミュニティ推進協議会事務事業	100	交付金 100	100,000	交付金 100,000									地域分権・協働課 地域分権総務費
地域コミュニティ紙等発行事業	295	補助金 295	277,750	補助金 277,750	地域コミュニティ推進協議会の活動内容を広く地域住民にPRするため、地域コミュニティ紙を発行する。	地域コミュニティ推進協議会の活動内容を地域住民にPRするため、地域コミュニティ紙を発行する。	地域コミュニティ紙を各戸配布によりコミュニティの活動の理解が深まる。	地域コミュニティの活動の理解が高まってきている。地域コミュニティの活動に参加したいという人が出てきている。	今後もコミュニティ紙をカラー刷りにすることで、読みやすく、解かりやすく、親しんでもらえる、コミュニティ紙にしたい。			コミュニティ紙の発行することによって協議会に興味を持っていただくことが重要であると考える。	地域分権・協働課 コミュニティ推進事業費
防犯カメラ設置事業	956	請負費 956	892,500	請負費 892,500	市道石橋15号線ガード下付近に犯罪撲滅のため、防犯カメラを2基設置する。	通行者が多く、放置自転車や、ガード下周辺の落書き等、犯罪が起きやすい場所である。	市道石橋15号線、阪急電車ガード下付近に犯罪撲滅のため、防犯カメラを2基設置した。	防犯カメラ付近でコミュニティの掲示板がラスタを割られる事件があり、カメラの開示をしたが犯人につながるものが、見つからなかった。今後その効果は出ると思う。	防犯カメラの、効果は大きいと思われるので、増設していきたい。			地域の危険箇所を訪ねて防犯カメラを設置することで、犯罪の発生を未然に防ぐ効果があると確信している。	危機管理課 安全防災事業費
避難場所等案内看板管理事業	101	消耗品費 38 修繕料 63	100,800	消耗品費 37,800 修繕料 63,000	前年度事業で設置した避難場所案内板下のホルダーに標語等を掲示する。	前年度事業で避難場所案内板を設置し、案内板下のホルダーに標語等を掲示している。	案内板下の標語パネルの増やした。	案内板の活用を利用することで、住民の目を引き付けることを目的として「美しくする条例」等標語を仕込み、掲示板に市民の目に効果が出ている。	市民の関心を引く標語が、必要である。			既存の掲示板を有効活用し、まちの美化を呼びかけるなど、まちづくりに貢献したと評価できる。	危機管理課 安全防災事業費
防犯カメラ管理事業	167	電気使用料 30 設備保守点検委託料 137	151,532	電気使用料 15,032 設備保守点検委託料 136,500	校区に設置した防犯カメラの維持管理を行う。カメラの維持、管理をし地域の防犯の抑止力子供の安全、安心の確保とする。	本年2基増設し校区内7基設置されている。カメラの維持、管理をし地域の防犯の抑止力子供の安全、安心の確保とする。	昨年、設置後防犯カメラの開示要請があり、警察、防犯カメラ運営委員会と行政の立会いで実施をした。	開示要請は無いほうがよいが、目的が達成でき、設置の稼働に意味深いものがあった。	防犯カメラ設置の操作方法を、短時間で開示できるよう運営委員会で模索研究する。増設に伴い維持管理費の負担が大きくなる。			防犯カメラの運用が、犯罪の抑制に繋がっているとの声があり、適切な管理による今後の犯罪抑制に繋がることが期待する。	危機管理課 安全防災事業費
石橋駅前アーケード看板設置事業	1,850	修繕料 1,850	1,732,500	修繕料 1,732,500	石橋駅西口のアーケードが完成する。このアーケードに「ウェルカム石橋」と「石橋駅の表示」をデザインした看板を設置する。	石橋駅、西口改札付近の通路幅が狭いため、改札口付近は人の混雑が起こっている状態である。	改札口付近の混雑解消のため、目印の看板を取り付けた。	設置した看板表示で石橋商店街や石橋西口改札出入りのPRができた。	商店街は色々な看板が多いので、看板表示に工夫が必要。駅改札口を出てきた人の流れが、良くなるようにすべき。			地域の特色を盛り込んだカラフルな看板表示で、石橋商店街や石橋西口改札のPRができた。	地域活性化課 地域活性化事業費
地域行事等活動推進事業	100	補助金 100	100,000	補助金 100,000	地域で開催される行事等を主催する団体に、活動推進に係る支援を行う。	地域で開催される行事(石橋まつり)等を主催される団体に、活動推進に係る支援を行う。	地域で開催される行事の費用を支援した。	地域だけの行事(祭り)でなく、池田市全域にわたる伝統行事となっている。	地域で開催される行事が、親睦と人の交流の中にあつて、安全対策が必要である。			地域交流の促進に貢献している。今後のコミュニティの更なる発展を期待する。	観光・ふれあい課 地域活性化事業費
清掃用具整備事業	20	補助金 20	19,110	補助金 19,110	前池公園周辺の清掃活動を行うため、清掃用具を購入する。	石橋前池公園の清掃を地域婦人会が清掃活動を行っている。清掃用具が不足している。	公園で遊ぶ児童や地域の人のため、地域の婦人会が清掃に取り組んでいる。	いつも、きれいな公園として利用されている。	地域活動として美化運動の和を広げていきたい。			清掃活動を地域の方々にも継続的にしてもらえ、「美しいまち池田」をめざして地域のクリーンアップに努めている。	環境にやさしい課 環境衛生事業費
AED管理事業	90	消耗品費 90	89,208	消耗品費 89,208	地域に設置されたAEDの電極パッドの使用期限到来に伴い、電極パッドを購入する。	地域に設置されたAEDの電極パッドの使用期限が到来しつつあった。	設置後AEDの使用は行われていない。	現在一度も利用していないのでAEDの効果はわからないが、設置されていることでの効果はある。	緊急時に必要とされるものである為、使用扱いを覚えておく必要がある。また、AEDの電極パッドの使用期限が早すぎる。			引き続き、AED設置・管理要領に基づき、維持管理、救命講習の実施に努めていきたい。	健康増進課 保健福祉事業費
市民レクリエーション大会事業	100	行事報償金 100	100,000	行事報償金 100,000	地域のスポーツ振興会等が開催する事業を支援する。スポーツ意識の向上に努める。	スポーツ振興会が教育委員会からの行事報償金で市民運動会を開催している。	校区で開催される市民レクリエーション大会の運営費の支援を行った。	地域住民の健康と交流の深まりがあった。	地域住民の多くの人の参加が望まれる。			多くの地域住民の健康と体づくりと地域コミュニティの連携を図るために実施された。今年度から地域分権事業として実施され、より地域住民のニーズに添った事業展開がなされた。	生涯学習推進課 教育事業費
転落防止柵設置事業	1,854	請負費 1,854	1,660,050	請負費 1,660,050	地域内の農業用水路は生活道路沿いにある。転落防止柵を設置することで、日常の通行のみならず、大雨時の水路転落を防止する等、地域住民等にとってより安全・安心なまちづくりを図る。	水路へ車や子供の水路への転落の心配があった。	地域住民にとって安全、安心が確保出来た。	転落防止柵の設置により、転落の心配は解消された。	大雨による水路の防災の懸念を考慮する必要がある。			水路に転落防止柵を設置することで、大雨時や夜間の転落対策として効果をもたらしている。	みずとみどりの課 土木事業費
防災備品整備事業(かまどベンチ設置)	378	修繕料 378	367,815	修繕料 367,815	災害発生時に一次避難場所に指定されている石橋駅前公園にかまどベンチを設置し、災害後の炊き出しの拠点とする。	石橋駅前公園は災害発生時に一次避難場所に指定されている。	通常は公園ベンチとして利用しているが防災訓練のときに活用する。	現在は、防災訓練時に効果が発揮される。	利用価値が大きければ増設を考える。			公園のベンチとして頻りに利用されている。今後は、防災用のかまどベンチであることを広く周知し、地域の防災訓練等で積極的に活用してもらいたい。	みずとみどりの課 土木事業費
道路安全対策事業	2,782	請負費 2,782	2,480,100	請負費 2,480,100	旧西国街道にグリーンベルト歩行帯を設けることにより、歩行者・運転者の安全意識の向上を図る。	旧西国街道は歩行者の交通安全を守るために、必要な道路である。	旧西国街道の歩行者の交通安全のためグリーンベルト歩行帯を作った。	グリーンベルトをひくことにより車の走行に注意力が変わった。歩行者や自転車の通行にも安全意識が高まった。	学童通学道路の狭い所が多いので、その対策を考えるべきだと思う。			歩行者の通行帯確保による安全意識の向上及び通行帯面への運転マナーの向上に一定の効果があったと考えている。	道路課 土木事業費
計		8,793		8,071,365	次年度繰越金額 10千円								

鉢塚・緑丘地区コミュニティ推進協議会(事業費総額 8,789千円)

事業名	予算額(千円)		決算額(円)		概要	実施前の状況	実施後の状況	事業の効果	今後の課題等	協議会における評価方法	市の総合評価	市担当課の評価	所管課
	説明(千円)		説明(円)										科目(目)
地域コミュニティ推進協議会事務事業	100	交付金 100	100,000	交付金 100,000									地域分権・協働課 地域分権総務費
地域コミュニティ紙等発行事業	200	補助金 200	199,384	補助金 199,384	地域コミュニティ推進協議会の活動内容を広く地域住民にPRするため、地域コミュニティ紙を発行する。	例年、当コミュニティ推進協議会の提案事業、地域のイベント、防災キャンペーン等の内容で4,000部を発行し、好区内の全戸配布を実施している。	23年度は、花しょうぶ祭りでの野点復活、鉢塚公園のリニューアルなどを報じたHAMICを3回(毎回4千部)発行し、地域の全戸に配布した。	花しょうぶ祭りの野点では、HAMICIに印刷された高齢者優待券を利用された方が数十名あったほか、一部のニュースに拘わる問い合わせがあるなど反響があった。	今後も地域密着型の記事を報道し、地域活性化の一助とする。			花しょうぶ祭りの記事掲載は、イベントの周知活動に影響を与えたと考える。また掲載記事への問い合わせがあったことを考えると住民に定着していると考えている。	地域分権・協働課 コミュニティ推進事業費
地域掲示板設置事業	400	修繕料 400	357,000	修繕料 357,000	地域コミュニティ推進協議会の活動状況等を地域住民にPRするため、掲示板を設置する。	従来、緑丘小学校区内の11箇所に掲示板を設置していた。しかしながら、校区内で掲示板の少ない地域があった。	アルビス緑丘東側の宅地開発地域および国道176号線南側の地域に掲示板を新設し、合計13箇所となった。	コミュニティ推進協議会からの情報発信および地域住民間の情報発信の場として活用されている。	今後も当該掲示板を有効活用する。			掲示板を設置することにより地域内の広報活動に大きく寄与することを期待する。	地域分権・協働課 地域活性化事業費
地域イベント開催事業	450	補助金 450	405,382	補助金 405,382	花しょうぶ祭りに、移動動物園を招致し、ふれあい動物園を開催する。また、要望が多かった野点の会を開催し、子どもたちにも茶道体験の機会をつくる。	例年開催されていた野点が、前年、開催されなかつたため、菖蒲園周辺がさみしい雰囲気となった。また、移動動物園は毎年、当コミュニティ推進協議会主催で実施できており、好評を得ている。	協議会主催で野点を復活し、菖蒲園周辺が華やかな雰囲気となり、延べ862名の来園者が野点を楽しんだ。また、例年通り移動動物園を開催し、多くの未就学児童が小動物との触れ合いを楽しんだ。	未就学児童から高齢者まで幅広い年齢層の来園者が楽しめる地域イベントとなった。	地域のビッグイベントを今後も活性化するため、これらの事業を継続させることが必要である。また、野点については、より多くの地元住民がスタッフとなり、運営を支えていく体制を構築する必要がある。			野点・ふれあい動物園ともに盛況で、多大な集客効果があった。	観光・ふれあい課 地域活性化事業費
ふれあい講習会開催事業	460	補助金 460	456,724	補助金 456,724	星座観察会を通じて親子のふれあいの場を提供する。子どもたちに、本格的な音楽に接する機会をつくるためのイベント「音楽の宝宝箱」を開催する。	例年、夏は星座観察、冬はプラネタリウムと天体望遠鏡による星座観察を行ってきた。また、昨年、ふれあいフェスティバルのコーナーで音楽の宝宝箱を企画し、大阪音楽大学の協力を得て実施してきた。	屋外星座観察、スライドショー及び紙飛行機飛ばし大会を開催した。また音楽の宝宝箱では、緑丘小の協力を得て準備し、関西を代表するオペラ歌手の生の歌声や、参加者に馴染み深い歌を全員で合唱した。	延べ340名が楽しめる教育イベントとなった。また、音楽の宝宝箱では約110名の参加者が、プロの歌声を堪能した。また、親子に馴染みの楽曲の合唱を楽しんだ。アンケートでも、来年の開催を要望する声があった。	地域の児童科学教育として、本事業を継続させることが必要である。また、子供から高齢者まで幅広い年齢層の方が楽しめる内容とする。また音楽の宝宝箱では、参加者の更なる増加を図る。			地域住民がふれあえる講習会として、星空観察会(7月・1月)と音楽の宝宝箱(10月)が実施された。今後は地域の実情に応じ、更なる新しい企画やアイデアの充塞などを図り、講習会をとおして地域コミュニティの推進に努めていきたい。	生涯学習推進課 教育事業費
ふるさと再発見講座開催事業	330	補助金 330	329,643	補助金 329,643	池田について学ぶことは、小学3年生以降の授業であるが、現場へ向く機会に限られる。また、緑丘小、附属小共催イベントは、いくつかあったが、各校の教員がボランティアで積極的に企画から参画することはなかった。	児童の日常会話の中で、「ふるさと池田探検隊」で訪問した場所について語られるようになった。また、緑小1名、附小1名の教員が企画段階から参画され、実施段階では緑小3名、附小2名の教員の協力を得た。	児童の日常会話の中で、見学先が話題となっていることから、一定の効果があったと思われる。また、空港見学では、定員の5倍の応募があったため、抽選となった。本企画は、依然として多くの関心を集めている。	学校行事に留意し今後も実施回数を増やしたい。また、緑丘小、附属小を平等に扱い抽選をしてきたが、緑丘小児童参加者数が少ない。市事業を考慮し、今後、緑丘小児童の参加機会を改善する。	各部会でまとめられたものを役員会で決定する。		グリーンベルトの設置が、安全対策の向上に繋がり、児童の安全な通学路として地域に定着することを期待する。また野点の会の復活で地域のふれあいの場の提供に繋がることを期待する。	生涯学習推進課 教育事業費	
市民レクリエーション大会事業	200	行事報償金 200	200,000	行事報償金 200,000	地域のスポーツ振興会等が開催する事業を支援する。地域コミュニティ意識の高揚に努める。	例年、地域住民が気軽にスポーツに親しむ機会となるよう、また、住民の体力健康づくりの場となるよう、緑丘小グラウンドにて運動会を開催している。	本年から、鉢塚・緑丘地区コミュニティ推進協議会の支援事業として開催し、多数の参加者を得た。	子供から高齢者まで幅広い年齢層の参加者が楽しめる地域イベントとなった。	地域のスポーツイベントとして、本事業を継続させることが必要である。			地域住民が気軽にスポーツに親しむめる行事として、また体力と健康づくりのイベントとして毎年開催されている。今年度は地域分権事業として、さらに地域住民のニーズに対応した運営がなされた。	生涯学習推進課 教育事業費
昆虫育成講習会実施事業	280	補助金 280	279,914	補助金 279,914	水月公園にカブトムシ・クワガタムシを育成し、生育する姿を学ぶ。	例年、緑丘小校区内でスタンプラリーを開催し、親子で身近な自然とのふれあいを深めてきた。また、カブトムシ育成講習会を開催し、生命の大切さ・命を育むことの素晴らしさを伝えてきた。	23年度は、五月丘小・森野小・緑丘小の3校区のコミュニティ推進協議会共催で、緑丘小校区内でのスタンプラリーを開催した。また例年通り、3回のカブトムシ育成講習会を開催した。	未就学児童から小学生までが、カブトムシ育成講習会を楽しむとともに、水月公園にカブトムシが飛び回るようになった。	カブトムシ育成講習会を4年続けてきたため、参加者が減少傾向となった。次年度からは、クワガタムシに変更する。			カブトムシをきっかけに昆虫の育成のみならず親子や地域とふれあう機会があり、子育て世代への支援にもなっている。	みずとみどりの課 土木事業費
公園施設改修事業	3,669	請負費 3,669	3,379,000	請負費 3,379,000	地域内の2公園に、花壇等を設置し高齢者幼児向け憩いの場をつくる。また、2世代がそれぞれ利用できる道具の設置等の改修を行う。	約40年前に造られた公園であるが、道具の老朽化が激しく、美観も悪いため公園利用者は少なかった。	利用されていない危険な道具を撤去し、高齢者用・幼児用の道具を設置した。また、花壇を設置し、明るい公園・利用される公園に改修した。	公園全体が明るい雰囲気となり、道具の利用も含め、従来より利用者が増加した。	他地域の公園についても、検討を進める必要がある。			鉢塚公園については、地域と協働で計画から実施まで行った結果、地域のニーズにあった公園づくりができ、地域住民や利用者に関心を持って利用して頂いている。また、地域内の他の公園再整備に繋がってきている。	みずとみどりの課 土木事業費
道路安全対策事業	2,700	請負費 2,700	2,425,500	請負費 2,425,500	グリーンベルト歩道帯を設けることにより、歩行者・運転者の安全意識の向上に努める。	大阪教育大学附属池田小学校南側の道路および東保病院前の道路は、緑丘小学校・附属池田小の通学路であるが、白線で補車道の境界を示しているのみ危険な状態であった。	グリーンベルト歩道帯を設けることで道路は緑丘小の「通学路」としてわかりやすくなった。	補道帯をグリーンベルト化したため、特に通行者とすれ違う際、車両がスピードを落とすケースが増えたようである。	地域内での同様の危険箇所について見当が必要である。また、グリーンベルト上を歩くよう、児童たちに繰り返し指導することが必要である。			歩行者の通行帯確保による安全意識の向上及び通行車両への運転マナーの向上に一定の効果があったと考えている。	道路課 土木事業費
計		8,789		8,132,547									

神田地域コミュニティ推進協議会〔事業提案年度額 9,040千円〕

事業名	予算額(千円)		決算額(円)		概要	実施前の状況	実施後の状況	事業の効果	今後の課題等	協議会における評価方法	市の総合評価	市担当課の評価	所管課
	説明(千円)		説明(円)										科目(目)
地域コミュニティ推進協議会事務事業	100	交付金 100	100,000	交付金 100,000									地域分権・協働課 地域分権総務費
地域コミュニティ紙等発行事業	450	補助金 450	450,000	補助金 450,000	地域コミュニティ推進協議会の活動内容を広く地域住民にPRするため、地域コミュニティ紙を発行する。	事務費予算の範囲内で年1回発行する。(白黒印刷)	カラー刷りの広報誌を、年3回地域内全戸配布ができた。(22年度以降継続)	各種地域団体の活動紹介をとりあげることができ、回数も増えたので地域への活動内容のPRができた。	新規協議会メンバー・安全パトロールボランティアを継続して広報誌で募集を続ける必要がある。			コミュニティ紙に協議会員や安全パトロールボランティアの募集記事等地域の活動を掲載しさらに充実させて欲しい。	地域分権・協働課 コミュニティ推進事業費
安全パトロール実施事業	320	器具費 250 補助金 70	260,000	器具費 246,600 補助金 13,400	PTAによる登校時の見守り活動は通学路を中心に実施されていたが、下校時も含め校区全体の安全パトロール体制がなかった。20年度からパトロールを開始することになった。	電動自転車による安全パトロール体制ができ、ボランティアを中心に下校時校区内安全パトロールが実施された。(21年1月以降)22年度に続き、継続して実施できた。(ボランティアも増加)	安全パトロールで直接目につく効果はないが、地域住民に少しずつパトロール実施が認識されてきて、防犯意識の向上に役立っている。電動自転車3台追加購入し、小柄な人でも参加できるようになった。	ボランティア人員の確保・増員(現状15名)が必要である。	ボランティアの確保・増員(現状15名)が必要である。			今後もパトロール活動の強化に努めていきたい。	危機管理課 安全防災事業費
ハザードマップ作成事業	250	補助金 250	216,735	補助金 216,735	地域住民による、「地域版ハザードマップ」を作成する。地域内住民の安全対策の強化を図る。	池田市全域のハザードマップがなく、大判なので指示しにくい。	神田地区限定ハザードマップをA3判で作成、全戸配布すると共に、地域内掲示板に掲示することにした。(消火栓の設置場所の表示を追加)また、新たに神田地区の住民になった人にも配布することにした。	A3判になったので、冷蔵庫等日常目につく場所に掲示が可能になり有効にかつようされるようになった。	市で新たなハザードマップ情報が作成できれば、神田地区版としてA3判での作成が必要である。			地域を熟知する協議会によるハザードマップの作成により、今後方が災害が発生した時減災につながることを期待する。	危機管理課 安全防災事業費
地域イベント備品整備事業	1,070	器具費 1,070	958,755	器具費 958,755	地域内行事の充実を図るため、行事等に必要な備品の購入を行う。	老人招待昼食会当地域行事に、小学校の古い机等を活用していた。高さのばらつき等があり、設置に苦労した。	22年度は一部しか購入できなかったが、23年度に必要な数量が整備でき、地域行事の設置が簡単に出来るようになった。	設置が簡単になり、また、会場の雰囲気もよくなった。	保管場所を学校と協議する。(可能であれば、1階に保管できればより使いやすくなる。)			地域のイベントの発展に寄与しており、更なる利用の促進を期待する。	観光・ふれあい課 地域活性化事業費
地域行事等活動促進事業	100	補助金 100	100,000	補助金 100,000	地域で開催される盆踊り等の行事を支援し、地域の活性化を図る。	神田小学校区盆踊り大会が、地域の寄付・市からの定額支援で実施されており、出店等の収益で予算不足をカバーしていた。	市からの定額支援より多くの金額の支援ができた。	地域行事の活性化が図れた。	毎年、助成必要金額の検証が必要である。	各部会からの報告を受け、役員会でまとめられたものを総会で決定する。	神田版ハザードマップの作成によって地域の詳細な防災情報が確認できるようになった。また、用紙サイズもA3判で作成し、確認しやすいようになっているので何かあった時に有効活用していただきたい。	地域のイベントの発展に寄与しており、更なる交流が期待される。	観光・ふれあい課 地域活性化事業費
キッズランド用備品購入事業	150	消耗品費 150	149,189	消耗品費 149,189	キッズランド用備品を充実させる。事業内容の拡充と参加者の増加を図る。	キッズランドのパソコン教室用備品が不足し、十分な活動が出来なかった。	パソコン教室として必要なトナー、用紙類を支援することにした。	パソコン教室事業の充実および参加者の増加が図れた。	毎年、備品購入必要金額の検証が必要。			神田小学校「キッズランド」におけるパソコン教室に必要なプリンター用インクや紙は、参加者の活動に必要な不可欠な物品であり、活動の充実や参加者の増加につながっており、有効な事業として評価できる。	青少年センター 教育事業費
市民レクリエーション大会事業	100	行事報償金 100	100,000	行事報償金 100,000	地域のスポーツ振興会等が開催する事業を支援する。スポーツ意識の高揚に努める。	神田小学校区住民運動会が、地域の寄付・市からの定額支援で実施されており、予算不足を盆踊り収益等でカバーしていた。	市からの定額支援より多くの金額の支援ができた。	地域行事の活性化が図れた。	毎年、助成必要金額の検証が必要である。			運動を通じて多くの住民が健康・体力づくりと地域住民同士の親睦が図られた。今後も地域の実情に応じた個性ある運動会事業の継続に努められたい。	生涯学習推進課 教育事業費
転落防止柵設置事業	1,900	請負費 1,900	1,699,950	請負費 1,699,950	水路の転落等の恐れがある危険箇所に、転落防止柵を設置する。引き続き、事故防止に努める。	農業用水路に転落防止柵がない箇所が多い。(PTAアンケート調査でも指摘)	20年度申請で未実施箇所の防護柵設置がすべて完了した。	実施した場所については水路等への転落の危険は減少した。	安全パトロール実施中に新たに見つかった危険な場所については、24年度に「危険」の看板を設置予定である。			水路に転落防止柵を設置することで、大雨時や夜間の転落対策として効果をもたらしている。	みずとみどりの課 土木事業費
公園水飲・手洗い場整備事業	1,800	修繕料 1,800	1,800,000	修繕料 1,800,000	地域内の公園(2ヶ所)に水飲・手洗い場(車椅子対応)を設置する。利用者の衛生面等の充実を図る。	神田地区内の2ヶ所の公園に水飲・手洗い場がなかった。	2ヶ所の公園に、車椅子対応型の水飲・手洗い場が設置された。	子どもたちをはじめとする使用者の衛生面の充実、夏場での水分補給ができるようになった。	水飲・手洗い場の不備・故障が無いが等定期的なチェックが必要である。			水道の設置で、公園遊びの衛生面は向上している。今後は、イタズラや水遊びが頻発しないように、地域と行政が連携していく必要がある。	みずとみどりの課 土木事業費
街路灯強化事業	300	電気使用料 34 請負費 266	61,408	電気使用料 2,608 請負費 58,800	自主防災組織、自治会、町内会等からの要望に基づいた危険箇所に対して、街路灯の取替え(照度アップ)・新設を行う。	街路灯不足・照度不足が多く指摘されていた。(放火事件発生を受けた自主防災会、消防団による夜間パトロールで指摘)20年度要望のうち、土地所有者の承諾書関係で23年度に繰り返したものがあつた。	20年度に町会・自治会から要望のあったうち、23年度に繰り越した案件を中心に街路灯新設・照度アップを実施、校区内の夜間が明るくなった。	校区内の夜間が明るくなったことにより、放火等への牽制効果が出ている。	町会・自治会が無い地域の街路灯強化が必要である。また農地隣接地域等に設置する場合は、高さ・向き等の調整が必要である。私有地設置の場合は地主の承諾が必要だが、誰が地主であるか調査が必要である。			街路灯の新設により、地域内の夜間交通の安全確保が図られている。	道路課 土木事業費
計	6,540		5,896,037		次年度繰越金額 2,500千円								

伏尾台コミュニティ推進協議会(事業提案限度額 8,661千円・うち66千円は繰越)

事業名	予算額(千円)		決算額(円)		概要	実施前の状況	実施後の状況	事業の効果	今後の課題等	協議会における評価方法	市の総合評価	市担当課の評価	所管課
	説明(千円)		説明(円)										科目(目)
地域コミュニティ推進協議会事務事業	100	交付金 100	100,000	交付金 100,000									地域分権・協働課 地域分権総務費
安全パトロール実施事業	382	補助金 382	286,710	補助金 286,710	青色パトロール車による地域安全パトロールの充実を図る。地域の安全・安心の向上に応える。	平成20年9月から実施し、小学生にあいさすの受けを積極的に行った結果、中学生、出勤の人数であいさつを交わすことができるようになり防犯効果も高まってきた。	小学校の曜日ごとに学年ごとの下校時刻の違いに応じてより細かくパトロールスケジュールの最適化を行い、小学校の登校日に、1回1時間、1日2回から4回のパトロールを実施した。	4年間の継続が力となり、隊員と子どもたちの挨拶が定着してきた。挨拶が大人同士でも浸透しつつあり、近隣の目が空き巣等の防止に繋がり、防犯カメラとの相乗効果で3年連続空き巣被害0を更新できている。	隊員を増員しても乗務希望の曜日と時間が重複することが多く、また、夕刻以降の乗務希望の曜日と時間が重複することが多く、また、夕刻以降の乗務希望者が少ない、なんらかの対策が必要である。			日々の地道な活動の成果により、小学校区内でパトロールの認知が高まってきた。今後ともパトロール活動の強化に努めていきたい。	危機管理課 安全防災事業費
防犯防炎啓発事業	260	補助金 260	233,909	補助金 233,909	年末の防犯訓練、巡回パトロールを啓発するための用品を購入し、地域住民の防犯・防炎意識を高める。	自主防災組織が毎年の戸数減少で運営費及び防犯訓練の費用が厳しい状況であった。また市から貸与の安全チョッキは20枚で訓練時全員に着用してもらうことは出来なかった。	安全チョッキとパトロールライトを整備した。また、防犯訓練時には提案予算を活用することで項目の訓練を行い、防犯用品の性能チェックを行うことが出来た。	安全チョッキとパトロールライトは安全性が高く、貸与の繰り返しが可能である。また、地域内で予算工番が難しい中提案予算で予算を賄うことができ、320名を超える住民に訓練を受けてもらうことが出来た。	夏祭りの交通整理と経費に際して、より歩行者を誘導できるように通行止め期間における照明が確保されることが望ましい。自主防再組織のリーダー養成のため独自の教育カリキュラムを組めるようにしたい。			防犯訓練を実施することで、今後万が一災害が発生した時減災につながることを期待する。	危機管理課 安全防災事業費
防犯カメラ管理事業	43	電気使用料 15 設備保守点検委託料 28	41,474	電気使用料 13,474 設備保守点検委託料 28,000	防犯カメラの保守点検、維持管理を行い、空き巣等の犯罪抑制を図る。	伏尾台の出入口2箇所に防犯カメラを設置した。レコーダー内蔵のHDIには3週間分の画像が保存でき、順次上書きを記録するシステムである。	池田警察署から捜査のための開示記録要請が2件あった。危機管理課と協議会が立会いの下で開示し良好に記録されていることを確認した。また、業者によるメンテナンスの際も各機器は良好に作動していた。	警察の捜査にも協力できている。また、安全安全パトロール車による巡回、自主防災組織並びに自治会の防犯活動とあわせて3年連続空き巣被害0を更新できている。	防犯カメラに対して住民の認知度は上昇しつつあり、新たに公園、学校周辺に増設を望む声がある。また、防犯カメラ運用規定の広報活動と「防犯カメラ作動」の看板を増設する要請との調整が急務である。			適切な管理による今後の犯罪抑制に繋がることを期待する。	危機管理課 安全防災事業費
防災倉庫設置事業	371	器具費 371	310,800	器具費 310,800	小学校に防災用備品倉庫を設置し、災害発生時の迅速な活動に備える。	伏尾台小学校には市管理の防災備品が収納されている。災害発生時に迅速な救助活動を行うためには地域住民が管理できる防災倉庫を校庭に設置して防災備品等を収納し日頃から訓練することが望ましい。	体育用品等を収納する倉庫と並ぶように防災倉庫を設置した。設置後、校庭で自治会主催の夏祭り及び運動会が開催された際に防災倉庫が設置されたことを広報した。	避難場所には防災倉庫が設置されたことにより災害発生時の迅速な救助活動に備えることが可能になった。	防災倉庫の扉の施錠や鍵の管理責任者を徹底する必要がある。また、倉庫内の備品を整備するための棚を設置する必要がある。定期的に倉庫内の備品のチェックを行う必要がある。			地域内の防災備品を適切に配備・管理することができ、万が一の際に適切に利用されることを期待する。	危機管理課 安全防災事業費
AED管理事業	28	消耗品費 28	27,657	消耗品費 27,657	地域に設置されたAEDの電極パッドの使用期限到来に伴い、電極パッドを購入する。	3年前に緊急バス車庫事務所、伏尾台センターのコープに設置した。これまでは使用したことがないが、緊急時に備えてメンテナンスが必要である。	緊急バス車庫事務所に設置したAEDで、使用期限が迫ったパッドを交換し、使用可能な状態で常備されることになった。	コープと緊急バス車庫事務所内にAEDが使用可能な状態で常備されることになった。	地域住民へのAED設置場所の周知徹底を図る。毎年、総合防災訓練で使用体験を実施しているが別途使用訓練の機会を設けること、定期的に設置状態の確認を行うこと。			引き続き、AED設置・管理要領に基づき、維持管理、救命講習の実施に努めていきたい。	健康増進課 健康福祉事業費
子育て支援環境整備事業	100	補助金 100	95,945	補助金 95,945	幼児をもつ母親の子育て環境の改善とコミュニケーションの場づくりを行うため、用品等の拡充を図る。	伏尾台第1コミュニティセンターの一室で乳幼児を育てる母親が集まることのできる場所を提供し、これを運営する子育て支援グループを立ち上げた。毎週、部屋が開設される日時を決めて無料登録制で参加を募集する方法で運営している。	幼児向けの備品、体重計、遊具などの乳幼児用品を整備した結果、気楽に集い親子ともに遊び解放感を持つ部屋を維持できた。これまでの登録された親子は36組、ボランティアは8名であった。	「ほっとルームフレンズ」で親交を深めた親子同士がお互いの家や公園に出かけてグループで出遊できるという関係がよくなっている。この部屋に集うことで子どもと純粋に向き合い遊ぶ時間が持てるのが貴重であるとの感想が強く寄せられている。	未収園児が対象のため、就園児となった親子へのサポート体制を新たに設けていっている。また、新たに未就園児の親子への広報活動並びに新規登録を円滑に進める必要がある。またいつでも対応できる常設の子育て支援の部屋が必要である。			ボランティアスタッフの心強い支援の下、子育て中の親子が安心して集まれる場となっている。地域には子ども達が少なくはなっているが、手厚い行き届いた支援が展開されている。	子育て支援課 保健福祉事業費
地域行事等活動促進事業	100	補助金 100	100,000	補助金 100,000	地域の夏祭り開催費用の一部を支援する。行事を通して、住民間の交流拡大に努める。	自治会連合会が主催する夏祭りは、会員数が減少する自治会が増える中、予算総額を抑えながらも予算配分に苦慮している状況にあった。	盆踊りを行うための予算を補助金で充てることができ、例年通りの夏祭りを開催することができた。	地域住民の高齢化と少子化が進む中、伏尾台にこれだけ子どもがいたかと思えるほど、地域へ帰省中の若い親子連れが目立つとの印象を多くの自治会役員が口にする程、盛況な夏祭りとなった。	自治会連合会では、盆踊りを本補助金で賄うことができたが、夏祭りの一環として子ども会が行う御神輿運行の費用を負担しており、この費用に關して近年予算化が困難になってきている。			地域のイベントの発展に寄与しており、更なる交流が期待される。	観光・ふれあい課 地域活性化事業費
市民レクリエーション大会事業	130	行事報償金 130	130,000	行事報償金 130,000	地域のスポーツ振興会等が開催する各自治会の組織率の低下に伴い、自治会からの参加者並びに協賛金も低下している。	各自治会協賛金の低下を補う形の補助金として、必要な運用経費を賄うことが可能になり、例年通りのプログラムを組むことができ、多くの住民が参加して大いに楽しめるスポーツ大会を開催できた。	実行委員会並びに自治会連合会の役員、スタッフともに運営が積極的に行われ、又、各自治会の参加者の努力の結果、例年以上に参加者が増えて盛況な運動会であった。	参加者の高齢化からプログラムの見直し並びに運動量の減量化を求める申し入れがあった。幼児から高齢者までスポーツを楽しみ交流を深めて地域の活性化を図る新しい運動会を模索していく必要がある。			幼児から高齢者まで幅広い参加者により大会運営がなされた。さらに地域住民の生涯スポーツと地域活性化を図るために、今後も事業の継続に努めていきたい。	生涯学習推進課 教育事業費	
コミュニティ道路整備事業	500	補助金 500	500,000	補助金 500,000	地域間の交流とコミュニティ意識の高揚を図るため、細河コミュニティ推進協議会と協働で、地域間をつなぐコミュニティ道路の整備事業を行う。	伏尾台が造成された際に、細河中学校運動場裏側は久安寺の地所である里山に隣接しており中学校運動場裏側には久安寺山門脇に出る山道があった。	平成23年度末に久安寺の許可のもと、細河地域の多くの方の労働率の士の手付けにより拡幅・舗装工事を実施した。	山道は傾斜が緩やかだが道幅が狭く狭く狭く危険であったが、整備後は親子連れで子どもでも安心して歩ける道になった。	山道には未整備区間があり、ここを整備することで初めて伏尾台から久安寺へ散策道で安心して往来可能であるといえる。			道路整備により、より安全で安心な散策道が確保されたと考えられる。細河地域との協働事業として、今後も継続整備されることを期待する。	道路課 土木事業費
公園整備事業	681	修繕料 681	680,967	修繕料 680,967	公園内の階段・スロープに手すりを設置して、利用者の安全性の向上を図る。	伏尾台の中央公園は人の往来が多く、公園内にある階段とスロープ部分は雨上がりのあとが流れることが多く子どもが転ぶことがあった。	中央公園のリニューアル工事とともに、階段のスロープ部分に手すりを設置したところ、子どもでも大人も手すりをもって階段スロープを上り降りができるようになった。	中央公園のリニューアルで種々の遊具が整備されたことにより、幼児と高齢者の利用者が従来より増加していることが確認できたが、転倒事故などを耳にしないので手すりの設置が有効であるものと考えられる。	階段とスロープ部分に手すりが設置されたが、転倒などの要員となる、植え込み部分から砂が流れやすい状態を改善しそれを維持することが必要であると考えられる。			手摺の設置により、高齢者にも利用しやすい場として整備された。今後は、手摺が常時、利用できるように周囲の植栽管理が重要と認識している。	みずとみどりの課 土木事業費
地域コミュニティ協議会事務所運営事業	70	補助金 70	69,460	補助金 69,460	コミュニティ推進協議会活動拠点の管理・運営を行う。地域住民間のコミュニティ向上を図る。	協議会の認知度を上げるため、事務所設置を行い、奥田道路沿いで西公園側と目立つ場所に看板と掲示板を設置してこれを維持する。	協議会の会議を行う以外に自主防再組織の活動拠点として会議を開催したり、「花の会」の活動拠点としても利用してもらっている。	伏尾台地域に入ってきた目立つ立地条件のもと、各団体の拠点として活用されている。	築30年を経過しており、雨漏りや結露が著しく、書類が保管できず、いわゆる事務所としての機能を発揮することが出来ないため、会議開催程度の活用しか出来ない。			雨漏りや結露といった問題が多々発生しているが、協議会の活動拠点として有効に活用してもらっている。	みずとみどりの課 土木事業費
街路灯強化事業	1,000	電気使用料 20 請負費 980	875,076	電気使用料 16,176 請負費 858,900	街路灯の充実を図り、夜間の事故や犯罪を未然に防ぐ。	伏尾台地域が完成してから25年以上が経過して、地域内に夜道の暗い箇所が散見されるという意見があった。	協議会内に委員会を立ち上げ、問題箇所のリストアップを行い、優先順位をつけて、蛍光管の交換並びに街路灯の新設を実施した。	雨天の下校時、日暮れが早い冬の間でも明るくなったとの感想を多く聞いた。街路灯委員会での照度の検討が街並みのチェックを行うことができ、地域の様々な問題をより深く検討することができた。	まだ照度アップが必要な場所が残っているため次年度も実施予定ではあるが、次年度で街区に必要とされる照度アップはほぼ完成すると思われる。費用対効果が飽和することが必要である。			街路灯の新設・照度アップにより、地域内の夜間交通の安全確保が図られている。	道路課 土木事業費
計	3,765		3,451,998		次年度繰越金額 4,896千円								

合計	90,838		83,189,471		事業提案限度額 99,020千円 次年度繰越金額 8,182千円
----	--------	--	------------	--	----------------------------------